



明海大学・朝日大学共催 2023 英語授業改革セミナー

「本気で授業改革！」

**学習指導要領の趣旨を踏まえた中学校外国語科の学習指導の改善・充実
～コミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指すための英語教師の指導力～**

2023.8.2 明海大学

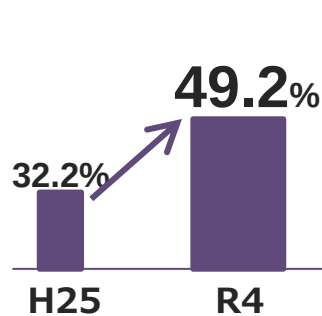
**文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 外国語教育推進室 教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 入之内 昌徳**

Let's perform what we can do for future children!

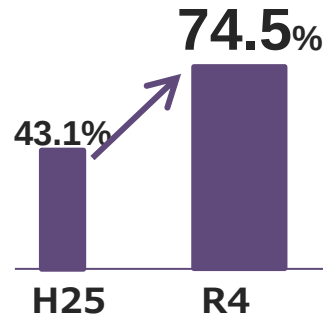
英語教育に関するこれまでの成果

(出典) 平成25年度及び令和4年度英語教育実施状況調査より

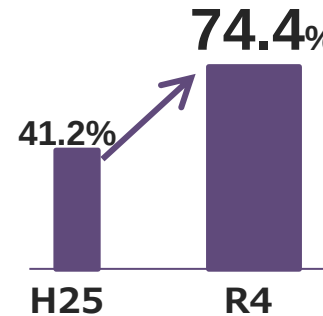
中学校



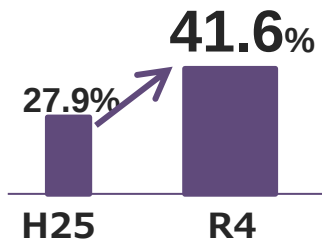
生徒の英語力
(第3学年)
CEFR A1以上



生徒の英語による
言語活動の割合
(概ね(75%以上)・半分以上の割合)

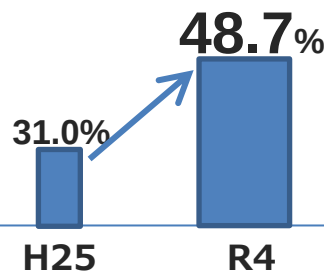


英語教師の
英語使用状況
(概ね(75%以上)・半分以上の割合)

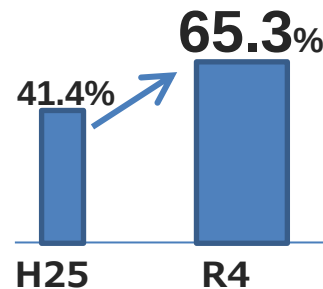


中学英語教師の英語力
(CEFR B2以上)

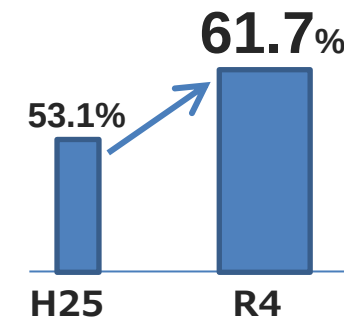
高等学校



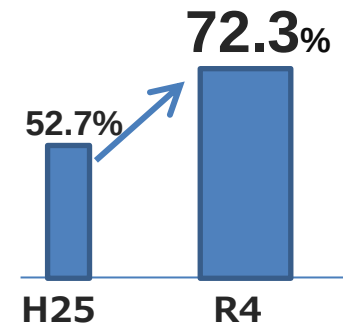
生徒の英語力
(第3学年)
CEFR A2以上



生徒の英語による
言語活動の割合
(概ね(75%以上)・半分以上の割合)
※H25はコミュニケーション英語Ⅰ・普通科、
R4は英語コミュニケーションⅠ・普通科



英語教師の
英語使用状況
(概ね(75%以上)・半分以上の割合)
※H25はコミュニケーション英語Ⅰ・普通科、
R4は英語コミュニケーションⅠ・普通科



高校英語教師の英語力
(CEFR B2以上)

次期教育振興基本計画（R5～R9年度）の指標（案）

①生徒の英語力を60%以上に引き上げ

（中学生CEFR・A1レベル、高校生CEFR・A2レベル）

⇒特に「話すこと」「書くこと」について、デジタル活用を促進。

②「すべての」都道府県・指定都市で50%以上

（中学生CEFR・A1レベル、高校生CEFR・A2レベル）

⇒文部科学省と個別課題を共有、一層の連携を。

③特にグローバルに活躍することが期待される層を拡充

（高校生CEFR・B1レベル）

R5全国指導主事等連絡協議会

外国語教育推進室 浅原室長 行政説明より

①授業を「実際のコミュニケーションの場」にできていますか。

⇒先生が「やり取り」「発表」の中心になっていませんか。

⇒発音練習や単語練習など、児童生徒が一人でもできる学習がメインになっていませんか。

②「言語活動」を実践できていますか。

⇒授業を発音練習や単語、文法を学ぶことだけで終わっていませんか。練習したことや学んだことを自分の考えや気持ちを伝え合う活動などに結び付けられていますか。

⇒「何ができるようになるために」今この活動を行っているのか、児童生徒は理解できていますか。

③ALTは単語を読むだけなど、ICTが代替できる役割を担わせていませんか。

⇒即興の「やり取り」での適時適切な助言など、ALTの「人ならではの」強みを活かさせていますか。

⇒ALTがそうできるように、事前にALTと授業や活動の目的を共有できていますか。

④ICTを効果的に活用できていますか。

⇒ICTを使うことが目的になっていませんか。

【事務連絡】令和4年度「英語教育実施状況調査」の結果及び生徒の英語力向上に向けた取組の推進について（令和5年5月18日付）

令和5年5月18日

各都道府県教育委員会指導事務主管課
各指定都市教育委員会指導事務主管課

御中

文部科学省初等中等教育局教育課程課

令和4年度「英語教育実施状況調査」の結果及び
生徒の英語力向上に向けた取組の推進について（周知）

文部科学省が実施しております令和4年度「英語教育実施状況調査」について、このたび、参考1のとおり結果を取りまとめ、公表いたしましたのでお知らせいたします。本調査の実施に当たりまして、多大なる御理解・御協力をいただき、誠にありがとうございました。

今回の調査結果では、生徒の英語力について、引き続き着実な向上が見られております。また、教育委員会及び学校の取組として、授業における言語活動の充実やICTの活用等が進んでいるといった成果も見られているところです。

一方で、生徒の英語力について、「第3期教育振興基本計画」（平成30年度～令和4年度。以下「第3期計画」という。）における指標（中学校卒業段階でCEFRのA1レベル相当以上、高等学校卒業段階でCEFRのA2レベル相当以上を達成した中高生の割合を5割以上にする）には、あと一步のところまで到達しませんでした。また、依然として、生徒の英語力や様々な取組の数値に自治体間での開きが見られること、高等学校の教師の英語力について前年度より数値が低下していることなど、課題が見られたところです。

「次期教育振興基本計画について（答申）」（令和5年3月8日中央教育審議会）では、次期教育振興基本計画において、生徒の英語力の指標を引き上げるとともに、新たに、全ての都道府県・政令指定都市において第3期計画に掲げる指標を達成すること、また、高等学校卒業段階でCEFRのB1レベル相当以上を達成した高校生の割合を増加させることが盛り込まれています。今後、本答申等を踏まえ、次期教育振興基本計画が策定されることとなりますので、各教育委員会及び学校におかれましては、下記の事項について御理解の上、英語教育のより一層の改善・充実に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

1. 令和4年度「英語教育実施状況調査」の分析結果及びそれを踏まえた取組の推進について

本調査の分析結果によると、生徒の英語力の向上には、生徒の言語活動の割合、英語教師の英語力や発話の割合、ICTを活用した言語活動や外国語指導助手（以下「ALT」という。）による活動等が影響を与えていることが明らかになっている。

各学校におかれては、こうした分析結果も踏まえつつ、言語活動の充実、英語教師の英語力や発話の割合の向上、ICTの活用（発表や話すことにおけるやり取りをする活動、遠隔地の生徒等と英語で交流する活動）等の充実を図ること。

生徒の英語力向上に関する分析

○生徒の英語力の向上には、相関分析や取組の変化に着目した経年変化分析の結果、**「生徒の言語活動の割合」「英語教師の英語力や発話の割合」「ICTの活用（発表や話すことにおけるやり取りをする活動）」**等が影響を与えている。

○今回新たに把握した、**CEFR B1（英検2級）レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が高い高等学校**では、**ICTを活用した言語活動やALTによる授業外の活動を行っている学校**が高い割合でみられた。

⇒**生徒の英語による言語活動を増やすこと、言語活動の取組でICTやALTを効果的に活用すること、教師が英語力を高め授業で積極的に英語を使用することなどが、生徒の英語力の向上に必要。**

※今後、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果等とあわせて、教育委員会や学校等の取組と生徒の英語力の関係についてさらに分析予定。

生徒の英語力と各項目の相関（中学校・高等学校）

	生徒の英語による言語活動が50%以上の学校の割合	「CAN-DOリスト」形式による学習到達を公表している学校の割合	小学校/中学校と連携している学校の割合	生徒がパソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動を50%以上の授業で実施した学校の割合	CEFR B2レベル相当以上を取得している教師の割合（※1）
中学校	0.45*	0.37*	0.34*	0.37*	0.13*
高等学校	0.33*	0.27	0.18	0.33*	0.20*

*5% 水準で有意（両側）

（※1）のみ学校単位の相関（その他は都道府県単位）

【参考】 経年で伸びが見られた主な取組（※2）（中学校の例）

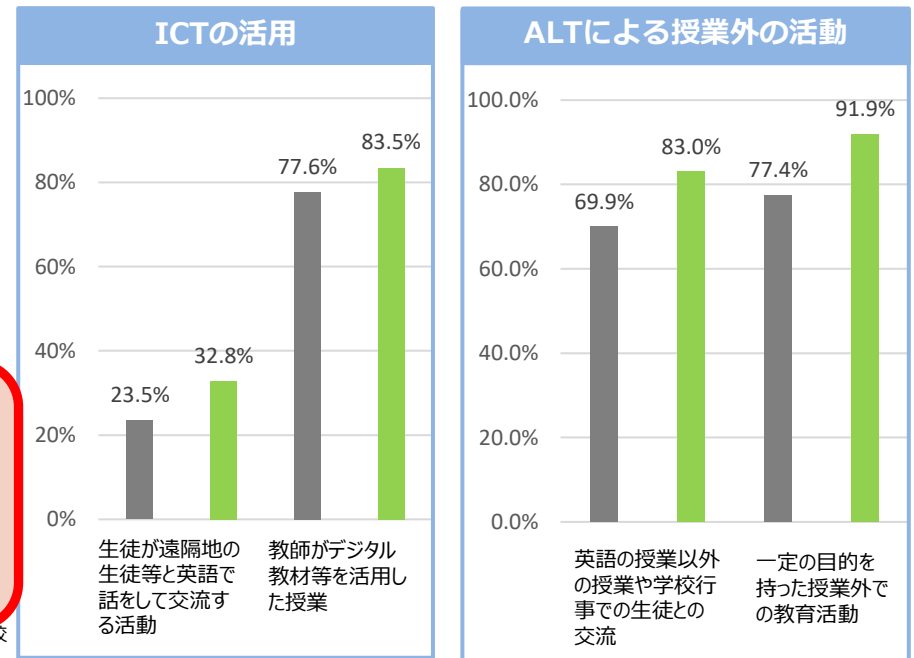
生徒の英語力に影響を与えた可能性が高い取組	差分の差 ^{※3}
授業において、生徒が英語で言語活動をしている時間の割合（第3学年）	0.073
英語担当教師の英語による発話の割合（第3学年）	0.052
ALTによる授業外の活動（英語の授業以外の授業や学校行事での生徒との交流）	0.045

※2 政令指定都市立の中学校について、R元年度とR4年度における取組の変化に着目し比較。上記の取組が増加している学校で、CEFR A1レベル（英検3級）相当以上の生徒の割合に増加がみられている。

※3 差分の差 = （取組に変化があった学校群の英語力の差分） - （取組に変化がなかった学校群の英語力の差分）

例えば、「0.073」は、取組に変化があった学校群の方が、取組に変化がなかった学校群より、CEFR A1レベル相当以上の生徒の割合の増加量が7.3%高かったことを示す。ただし、着目した取組以外の取組や外部環境の影響を受けている可能性もあることは留意が必要。

CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が平均より高い学校の傾向（高等学校）



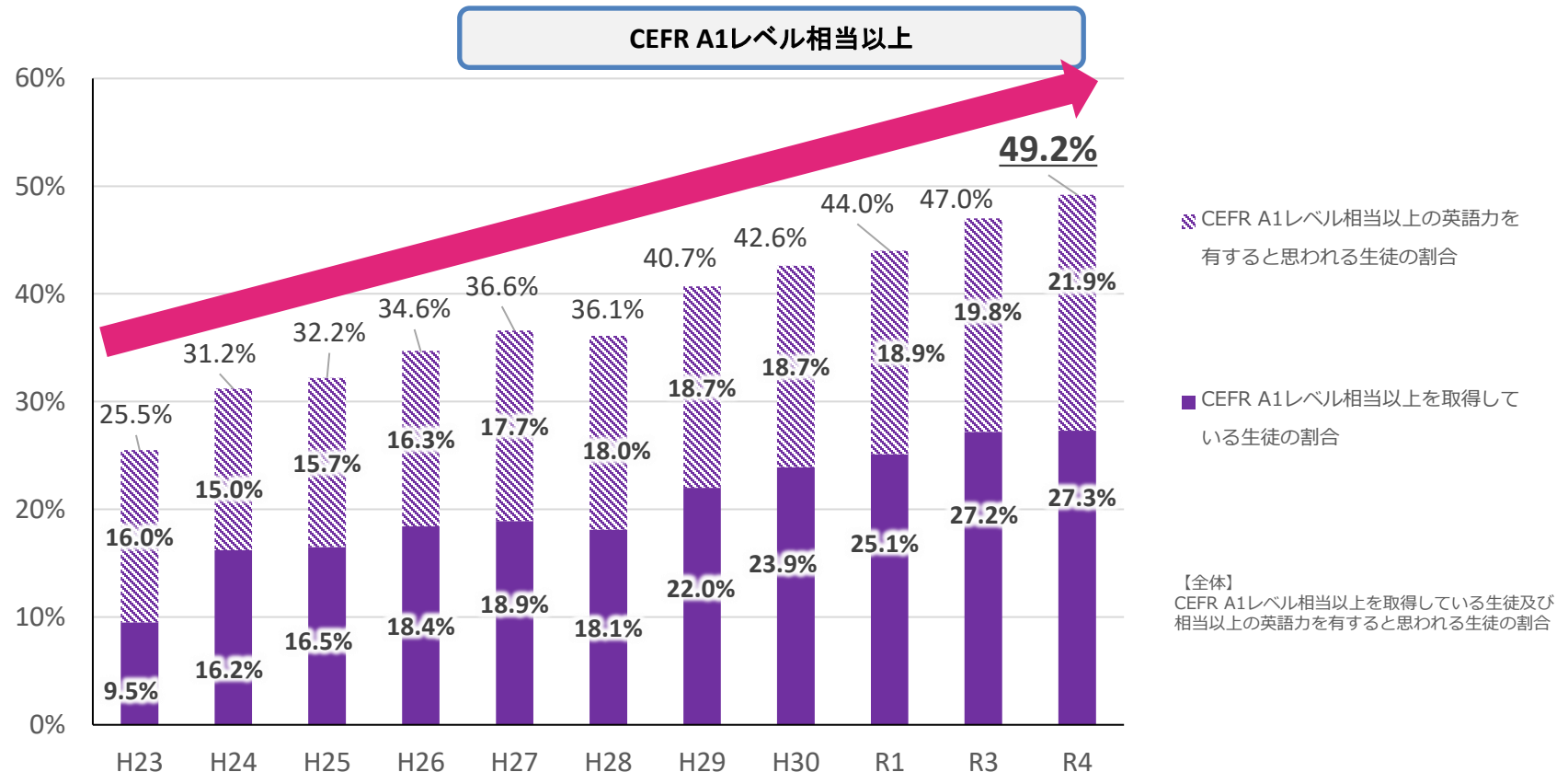
■ 学科全体（当該学科の全体平均）

■ CEFR B1レベル相当以上を取得している/有すると思われる生徒の割合が学科別平均より高い学校



中学生の英語力

- CEFR A1レベル（英検 3 級）相当以上を達成した中学生の割合は、**目標（50%）に対して49.2%となっているものの、着実に改善が進んでいる**。一方で、都道府県・指定都市による差（6ページ参照）がある。特に課題が見られる自治体の状況を把握・分析し、英語教育の改善・充実につなげることが必要。
- CEFR A1レベル相当以上の中学生の割合は、昨年度比2.2ポイント上昇している。



※「第3期教育振興基本計画」（H30～R4）では、中学校卒業段階でCEFR A1レベル相当以上を達成した中学生の割合50%を目標としている。

※「CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒」とは、実際に外部検定試験の級、スコア等を取得していないが、2技能または3技能を測る試験のスコア、公式な記録としては認定されない試験のスコア、CAN-DOリストに基づくパフォーマンステストの結果、各教育委員会でモデル校での検証に基づいて定めた目安等により、それに相当する英語力を有していると英語担当教師が判断する生徒を指す。

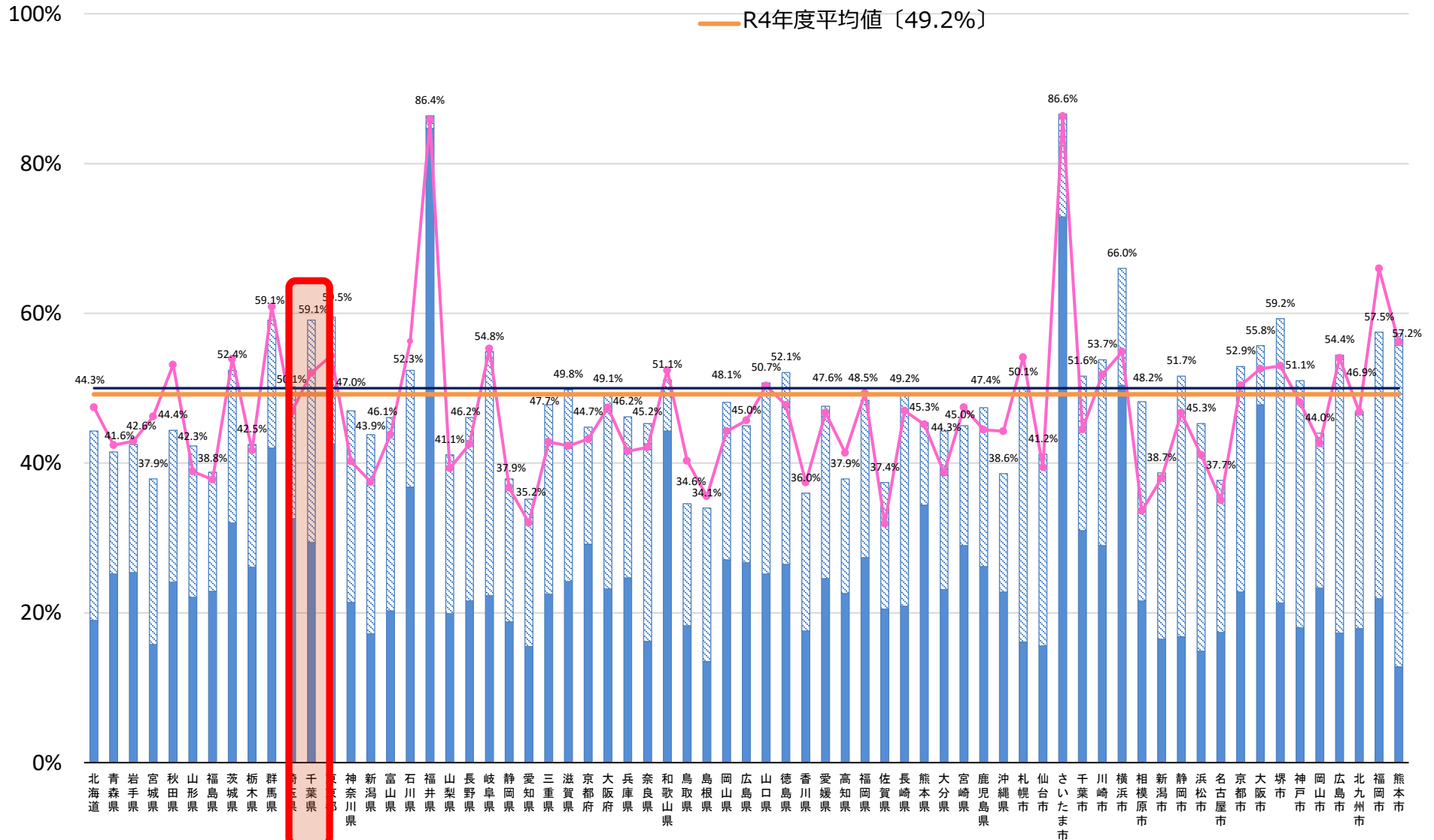
※上のグラフでは、中学校第3学年の生徒に占める割合を算出している。

※H23・H24の数値は「『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策』に係る状況調査」に基づく。

中学生の英語力(都道府県・指定都市別)

A1レベル相当以上

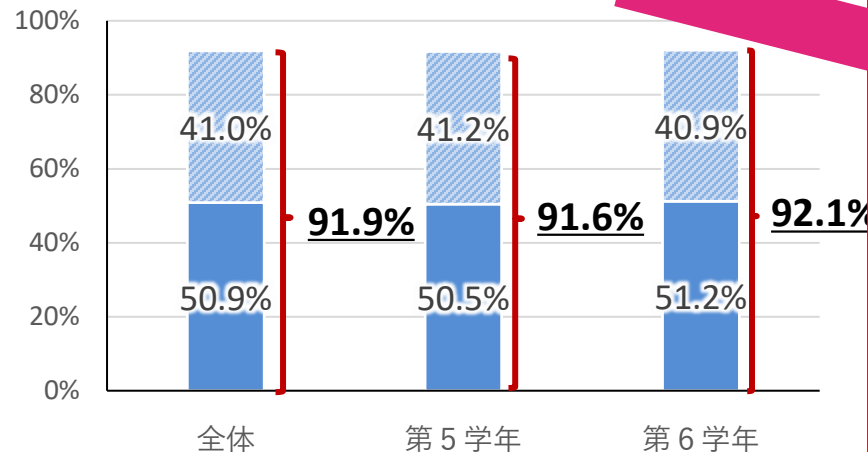
- CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合
- CEFR A1レベル相当以上を取得している生徒の割合
- R3年度
- 目標値：50%【第3期教育振興基本計画】
- R4年度平均値〔49.2%〕



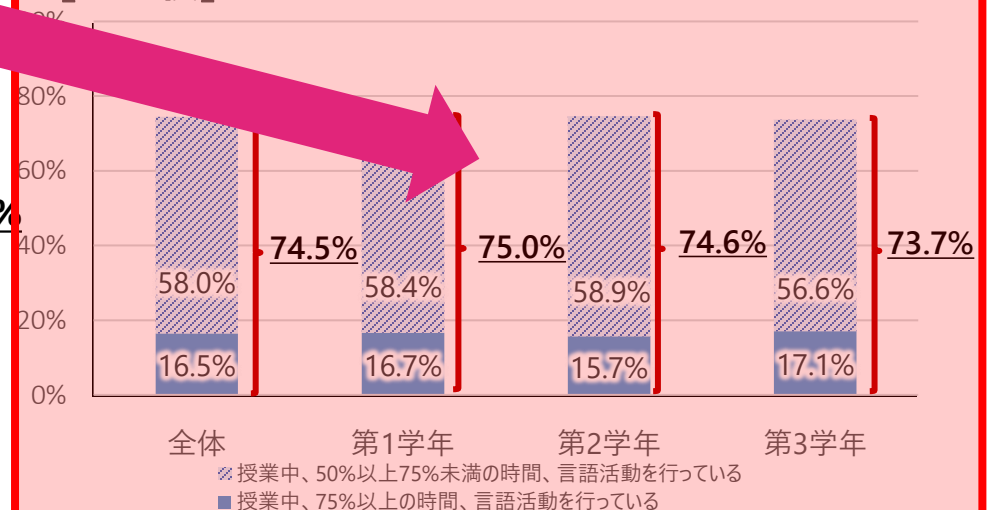
児童生徒の英語による言語活動の状況

- 小学校において、9割以上の学校が半分以上の時間、言語活動を行っている。
- 中学校において、7割以上の学校が半分以上の時間、言語活動を行っている。**
- 高等学校において、全体では5割以上の学校が半分以上の時間、言語活動を行っている。

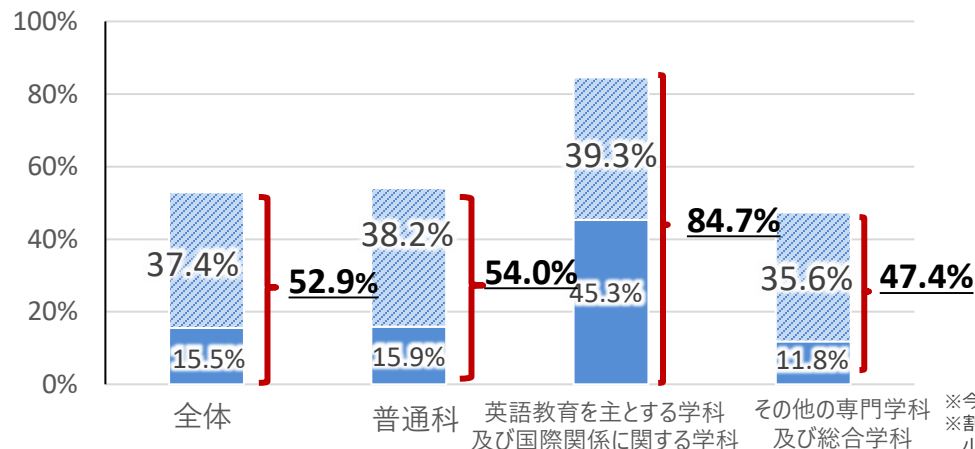
【小学校】



【中学校】



【高等学校】



(参考)

○中学校学習指導要領(外国語)：目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

○「言語活動」(小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブックから)

学習指導要領の外国語活動や外国語科においては、言語活動は、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。したがって、外国語活動や外国語科で扱われる活動がすべて言語活動かというそうではない。言語活動は、言語活動について理解したり練習したりするための指導と区別されている。

※今回調査から回答の単位を学校単位としているため、昨年度(令和3年度調査)との比較はできない。

※割合の合計は、小数点第2位切り上げ前の数字を合計して算出しているため、

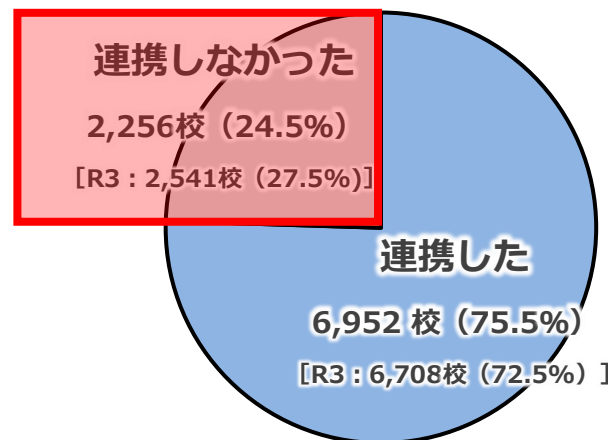
小数点切り上げ後の割合の和と一致しないことがある。

※「普通科」「英語教育を主とする学科及び国際関係に関する学科」「その他の専門学科及び総合学科」のそれぞれの中で学科が複数ある場合は、「普通科」「英語教育を主とする学科及び国際関係に関する学科」「その他の専門学科及び総合学科」ごとに1つずつの回答として集計している。

小学校・中学校・高等学校の連携に関する状況

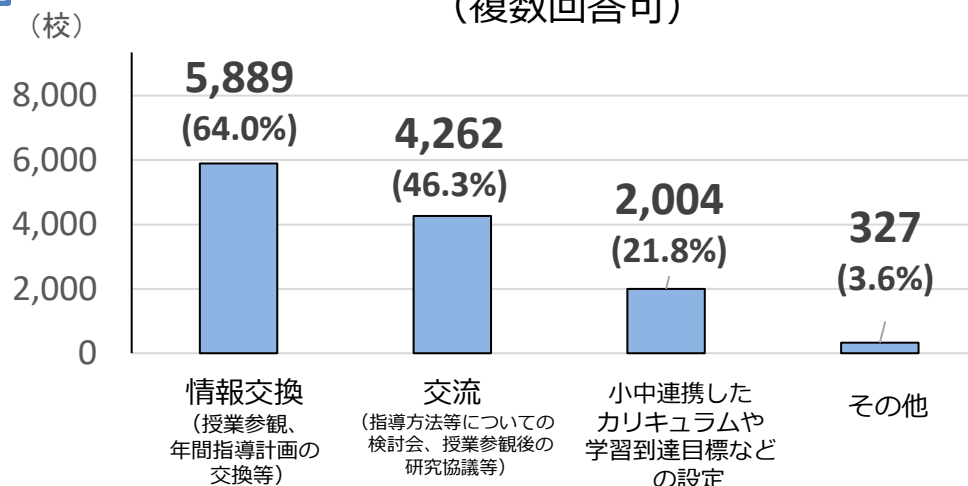
- 小学校との連携に取り組んでいる中学校の割合は75.5%であり、昨年度より3ポイント上昇した。
- 小学校・中学校との連携形態については、情報交換（授業参観、年間指導計画の交換等）が最も多い。

小学校との連携に取り組んでいる中学校



※全体数は、調査対象の中学校9,208校。

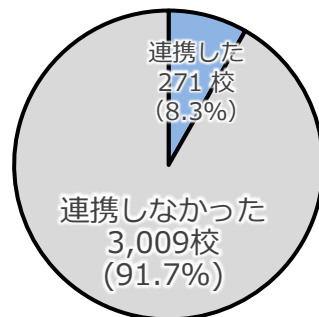
【中学校と小学校との連携の形態】 （複数回答可）



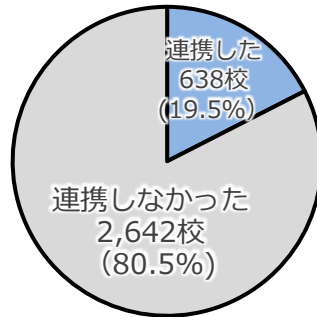
※全学校数を分母として割合を計算。

小・中学校との連携に取り組んでいる高等学校

【小学校との連携】

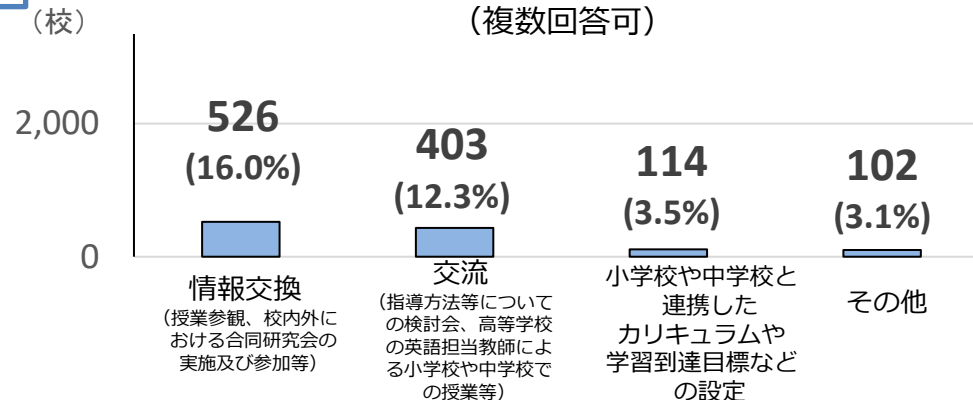


【中学校との連携】



※全体数は、調査対象の高等学校3,280校。

【高等学校と小・中学校との連携の形態】 （複数回答可）



※全学校数を分母として割合を計算。

千葉県における中学校外国語科の現状

生徒の英語力の状況

- 国の第3期教育振興基本計画では、中学生の英語力について、中学校卒業段階でCEFR A1レベル相当（英検3級程度）以上を達成した中学生の割合を50%としている。

→ 千葉県での生徒の英語力は、前年度より7.1ポイント上昇し、59.1%（R4）で全国平均49.2%（R3）より大きく上回っている。

単位：%

	英語能力に関する外部試験を受験したことがある生徒		CEFR A1レベル相当以上を取得している生徒【a】		CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒【b】		CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒【a】 + 【b】	
	千葉	全国	千葉	全国	千葉	全国	千葉	全国
R3	46.0	45.5	31.5	27.2	20.6	19.8	52.0	47.0
R4	42.6	44.9	29.4	27.3	29.7	21.8	59.1	49.2

授業における、生徒の英語による言語活動の割合（50%以上70%未満の時間）

- 学習指導要領では、英語を使って聞くこと・読むこと・話すこと・書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することが示されている。授業における生徒の英語による言語活動が、授業中「半分以上の時間、言語活動を行っている」と回答した割合は、中学校の全体で前年比+4.9の58.0%であった。

→ 千葉県では、全ての学年において、授業における生徒の言語活動の割合は全国平均を下回っている。

単位：%

	第1学年		第2学年		第3学年		全学年	
	千葉	全国	千葉	全国	千葉	全国	千葉	全国
R4	56.6	58.4	50.3	58.9	52.6	56.6	53.2	58.0

千葉県における中学校外国語科の現状

「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の状況

- 学習到達目標については、学習指導要領「指導計画の作成と内容の取扱い」において「学年ごとの目標を適切に定め、3学年間を通じて外国語科の目標の実現を図るようにすること」と規定されており、各学校において学年ごとの目標を設定する必要がある。

→ 千葉県では、設定においては前年より減少、公表及び把握においては前年度より上昇しているが、依然として全国平均を下回っている。

単位：％

	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定している学校		学習到達目標を公表している学校		学習到達目標の達成状況を把握している学校	
	千葉	全国	千葉	全国	千葉	全国
R3	95.5	94.7	26.9	47.7	38.1	67.5
R4	92.3	94.1	42.6	65.7	61.5	78.4

英語教育に関する小中連携の状況及び取組状況

- 学習到達目標については、学習指導要領「指導計画の作成と内容の取扱い」において「学年ごとの目標を適切に定め、3学年間を通じて外国語科の目標の実現を図るようにすること」と規定されており、各学校において学年ごとの目標を設定する必要がある。

→ 千葉県では、小学校と連携している中学校の割合は75.6％（R4）と前年より減少、カリキュラム等の設定をしている学校においては前年より上昇しているが、全国平均を大きく下回っている。

単位：％

	全ての学校のうち、小学校と連携している（連携する予定）学校		全ての学校のうち、情報交換を実施している学校		全ての学校のうち、交流を実施している学校		全ての学校のうち、小中連携したカリキュラムや学習到達目標などの設定を実施している学校	
	千葉	全国	千葉	全国	千葉	全国	千葉	全国
R3	89.4	72.5	70.8	62.6	32.7	39.7	9.0	20.2
R4	75.6	75.5	65.7	64.0	42.0	46.3	11.2	21.8

千葉県における中学校外国語科の現状

英語担当教師の英語力の状況（中学校）

- 「英語担当教師」とは、調査基準日時点において中学校に所属し、外国語（英語）の免許状（免許状の種類は問わない）を所有し、かつ英語の授業を担当している者（ただし、非常勤講師及び臨時的任用の者除く。）、第2期教育振興基本計画では、英検準1級程度以上（CEFR B2レベル以上）を取得した英語担当教師の割合、中学校は50%以上を目標としていた。

→ 千葉県のCEFR B2レベル以上の英語力を有する教員の割合が、前年度より41.8%（R4）+5.9ポイント、全国平均を上回っている。

単位：人

	調査対象教師数		CEFR B2レベル以上を取得している英語担当教師数			
	千葉	全国	千葉		全国	
R3	1,049	29,487	377	35.9%	12,034	40.8%
R4	1,064	29,133	445	41.8%	12,100	41.6%

授業における、英語担当教師の英語使用状況（発話の50%以上を行っている）

- 中学校学習指導要領第2章第9節 外国語 3 指導計画の作成と内容の取扱い（1）指導計画の作成上の配慮 Ⅰ 生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすることが大切である。
- 中学校では74.4%（R4）の学校で英語担当教師が発話の半分以上を英語で行っている。

→ 千葉県では、50%以上の英語を使用している割合は全体で57.4%（R4）で、全ての学年において全国平均を下回っている。

単位：%

	第1学年		第2学年		第3学年		全学年	
	千葉	全国	千葉	全国	千葉	全国	千葉	全国
R4	59.0	60.7	57.2	61.9	56.1	59.6	57.4	60.7

【事務連絡】小・中・高等学校を対象とした英語資格・検定試験制度について (令和5年4月12日付)

事務連絡
令和5年4月12日

各都道府県教育委員会指導事務主管課
各指定都市教育委員会指導事務主管課
各都道府県私立学校事務主管課
附属学校を置く各国公立大学法人附属学校事務主管課 御中
構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた
各地方公共団体株式会社立学校事務主管課
各国公私立高等専門学校機構事務局

文部科学省初等中等教育局
教育課程課外国語教育推進室

小・中・高等学校教員を対象とした英語資格・検定試験の特別受験制度について

平素より文部科学省の政策に格別の御理解、御協力をいただき誠にありがとうございます。

標記の件につき、平成24年度から、英語資格・検定試験を実施する各団体より英語教員を対象とした特別受験制度が提供されており、令和5年度においても同制度を継続して提供いただくことになりました。各位におかれましては、城内の市町村教育委員会、学校法人等の設置者や、設置・附属する学校を通じて、下記「1 対象者」に該当する者に対し、本件についての周知を図っていただきますようお願いいたします。

また、今回周知する特別受験制度の対象期間については、各団体の資料に明記されておりますので御確認いただきますようお願いいたします。

各位におかれましては、本件で周知する資格・検定試験を活用しながら、教員の英語力・指導力の向上に努めていただくようお願いいたします。

記

1 対象者

学校教育法第1条に規定された学校のうち、小学校の教員、並びに中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び高等専門学校の英語教員（常勤に限る）

2 問合せ先

本事務連絡全般に関する事項は以下の本件連絡先まで、各試験の実施に係る事項は、別紙に記載の試験実施団体の連絡先まで御連絡ください。

令和4年度「英語教育実施状況調査」の分析結果及びそれを踏まえた取組の推進に向けて

【調査項目：教師の英語使用状況及び英語力】

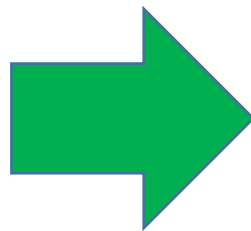
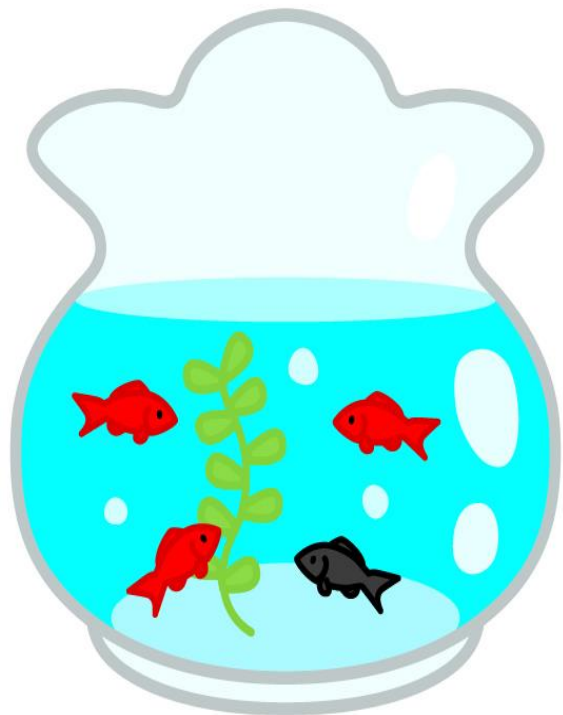
本調査の分析結果によると、生徒の英語力の向上には、**英語教師の英語力や発話の割合等**が影響を与えていることが明らかになっている。また、中学校英語科教員の英語力についても、依然として課題が見られることから、事務連絡の発出のみでとどまらず、**地域の実情を踏まえて、学校訪問や研修会等のあらゆる機会を通じて、これらの情報を伝え続けていくことが必要である。**

（例）

・人事担当者と連携した採用前研修会で未取得者及び研修センター担当者と連携し、悉皆研修会等のあらゆる機会を通じ、継続した呼びかけ

・市町村教育長及び学校主管課課長等、校長等の管理職研修会での呼びかけ等

これからの英語教育に求められること 金魚鉢から大海へ



(参考) OECDラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030

OECDラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030は、OECD Future of Education and Skills 2030プロジェクト※の成果であり、教育の未来に向けての望ましい未来像を描いた、進化し続ける学習の枠組み。教育の幅広い目標を支えるとともに、**個人のウェルビーイングと集団のウェルビーイング**に向けた方向性を示している。

※2011年にOECDと日本で開始した「OECD東北スクール」事業を多国間の枠組みに発展させ、2030年以降の未来を形作るため生徒に求められるコンピテンシーを明確化するとともに、このコンピテンシーを育む教師の資質や教育環境等を検討することを目的としたOECDの事業。

その構成要素には、学びの中核的な基盤、知識、スキル、態度と価値、より良い未来の創造に向けた変革を起こす**コンピテンシー**や、**見通し(Anticipation)・行動(Action)・振り返り(Reflection)のAARサイクル**が含まれる。また、ラーニング・コンパスは、生徒が周囲の人々、事象、状況をより良いものにすることを学ぶ上で、責任ある有意義な行動を取るための方向性を決めるために生徒が使うことができるツールであることから、**生徒エージェンシー**※は、ラーニングコンパスの中心的な概念である。

※エージェンシー：

変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力。≒主体性

学びの中核的基盤

カリキュラム全体を通して学習するために必要となる基礎的な条件や主要な知識、スキル、態度及び価値を指す。

より良い未来の創造に向けた変革を起こすコンピテンシー

新たな価値を創造する力、責任ある行動をとる力、対立やジレンマに対処する力は未来を形づくり、そこで活躍するための必要な能力。



見通し・行動・振り返りサイクル

学習者が継続的に自らの思考を改善し、集団のウェルビーイングに向かって意図的に、また責任を持って行動するための反復的な学習プロセス。

生徒エージェンシー

生徒が教師の決まりきった指導や指示をそのまま受け入れるのではなく、未知なる環境の中で自立で歩みを進め、意味のある、また責任感を伴う方法で進むべき方法を見出す必要性が強調されている。

学校教育法（昭和22年法律第26号） 第30条 （略）

② 前項の場合においては、（ ）にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な（ ）及び（ ）を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な（ ）力、（ ）力、（ ）力その他の能力をはぐくみ、（ ）に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

指導者のアップグレード

- 1 Facilitator
- 2 Motivator
- 3 Navigator
- 4 Coordinator

外国語教育で、大切にしたいと思っていることは何ですか。



授業を振り返ってみましょう

- 1 コミュニケーションを行う目的や場面、状況等 を設定して活動を行っていますか
- 2 日常的な話題や、社会的な話題を取り上げる等、題材の工夫 をしていますか
- 3 即興で表現するためのやり取り を授業で行っていますか
- 4 聞いたり読んだりしたことについて、話したり書いたりするなどの領域を統合した活動を行っていますか
- 5 言語材料を言語活動と効果的に関連付けて適切に指導できていますか

外国語活動・外国語科 学校段階別・「3つの柱」別の一覧

	小学校3・4	小学校5・6	中学校	高等学校
	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による 聞くこと、話すこと の 言語活動 を通して、 コミュニケーション を図る 素地 となる 資質・能力 を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による 聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと の 言語活動 を通して、 コミュニケーション を図る 基礎 となる 資質・能力 を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの 言語活動 を通して、 簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力 を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの 言語活動 及び これら結び付けた統合的な言語活動 を通して、 情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力 を次のとおり育成することを目指す。
知識・技能	(1) 外国語を通して、 言語や文化について体験的に理解 を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ ようにする。	(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付く、これらの知識を理解するとともに、 読むこと、書くことに慣れ親しみ 、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる 実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能 を身に付けるようにする。	(1) 外国語の音声や語彙、表現、 文法 、言語の働きなどを 理解 するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる 実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能 を身に付けるようにする。	(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの 理解を深め るとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる 実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能 を身に付けるようにする。
思考力・判断力・表現力	(2) 身近で簡単な事柄 について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを 伝え合う力の素地 を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄 について、 聞いたり話したり するとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の 考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力 を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、 日常的な話題や社会的な話題 について、 外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力 を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、 日常的な話題や社会的な話題 について、 外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力 を養う。
学びに向かう力・人間性	(3) 外国語を通して、言語やその背景にある 文化に対する理解 を深め、 相手に配慮 しながら、主体的に外国語を用いて コミュニケーションを図ろうとする態度 を養う。	(3) 外国語の背景にある 文化に対する理解 を深め、 他者に配慮 しながら、主体的に 外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 を養う。	(3) 外国語の背景にある 文化に対する理解 を深め、 聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮 しながら、主体的に外国語を用いて コミュニケーションを図ろうとする態度 を養う。	(3) 外国語の背景にある 文化に対する理解 を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、 自律的に 外国語を用いて コミュニケーションを図ろうとする態度 を養う。

中学校外国語科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける
見方・考え方

を働かせ

聞くこと

話すこと[やり取り]

言語活動

話すこと[発表]

読むこと

書くこと

を通して

簡単な情報や考えなど

理解する

表現する

伝え合う

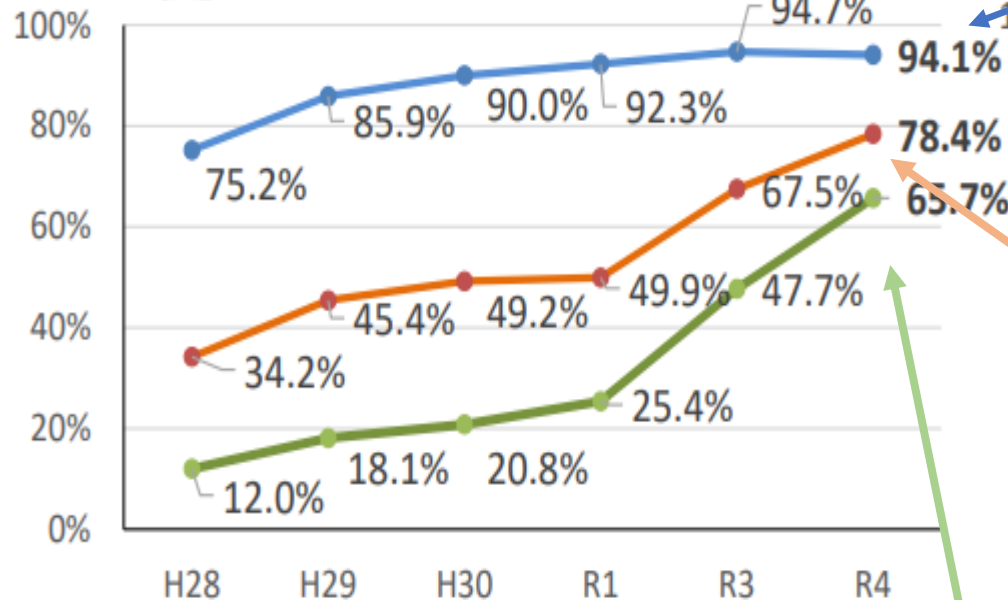
コミュニケーションを図る資質・能力

を育成する

CAN-DOリスト形式による学習到達目標の設定、把握、公表

外国語科の目標を各領域（聞くこと・読むこと・話すこと[やり取り]・話すこと[発表]・書くこと）ごとに「何ができるようになるか」という観点で設定していることを踏まえ、CAN-DOリスト形式による学習到達目標の設定と学習評価への活用等をより一層普及する必要がある。

【中学校】



【設定】

- ☒ 設定することが目的となっていないか
- ☒ 生徒の実態に即したもののか
- ☒ 不断の見直しを（英語科全員で）

【把握】

- ☒ 「指導と評価の一体化」の観点から、パフォーマンステストや定期テスト等で評価することでの達成状況の把握

—●— 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定している学校の割合
—●— 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の達成状況を把握している学校の割合
...●... 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を公表している学校の割合

【公表】

- 生徒へ
 - ☒ ゴールへの見通し（単元の導入時等で）を持たせるために生徒との共有
 - ☒ 中間指導の場面での確認（言語活動が目標に合っているか）
 - ☒ 振り返る視点（内容面、言語面）としての確認
- 保護者や地域へ
 - ☒ 学校HP等を活用して、保護者等への発信

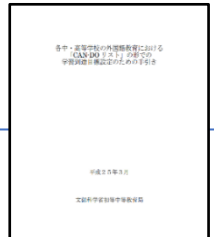
「CAN-DO リスト」の形による学習到達目標を設定する目的

(中略) ※一部抜粋

第一に、外国語能力向上のために、生徒が身に付ける能力を各学校が明確化し、教員が生徒の指導と評価の改善に活用することである。

第二に、学習到達目標を、言語を用いて「～することができる」という能力記述文の形で設定することにより、学習指導要領を踏まえた、4技能を有機的に結び付け、総合的に育成する指導につなげることである。

第三に、教員と生徒が外国語学習の目標を共有することである。これにより、生徒自身にも、言語を用いて、「～ができるようになりたい」、「～ができるようになることを目指す」といった自覚が芽生え、言語習得に必要な自律的学習者としての態度・姿勢が身に付くとともに、「言語を用いて～ができるようになった」という達成感による学習意欲の更なる向上にもつながることが期待される。



CAN-DOリスト形式による学習到達目標の必要性



中学校学習指導要領解説 外国語編(平成29年7月)

3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成の配慮事項

イ 学年ごとの目標を適切に定め、3学年間を通じて外国語科の目標の実現を図るようにすること。

<設定することで得られる効果> (抜粋)

- ・生徒にどのような英語力が身に付くか、英語を用いて何ができるようになるのか、あらかじめ明らかにすることができ、そうした情報を生徒や保護者と共有することで授業のねらいが明確になるとともに、生徒への適切な指導を行うことができる。
- ・「知識及び技能」の習得にとどまらず、それを活用してコミュニケーションを図れるよう、五つの領域にわたる総合的な資質・能力の習得を重視することが期待される。
- ・校内でも教師によって指導方法が大きく異なることがある中で、教師間で指導に当たっての共通理解を図り、均質的な指導を行うことができる。
- ・面接・スピーチ・エッセイ等のパフォーマンス評価などにより、「言語を用いて何ができるのか」という観点から評価がなされることが期待され、更なる指導と評価の一体化とその改善につなげることができる。

学習指導要領の目標では、中学校卒業までに育成することを目指す資質・能力を、「外国語を使って何ができるようになるか」という観点から、5つの領域別に「～できる」という形で示されている。

「言語活動」についての再確認

学習指導要領の外国語活動や外国語科においては、言語活動は、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。したがって、外国語活動や外国語科で扱われる活動がすべて言語活動かというそうではない。言語活動は、言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別されている。実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では、情報を整理しながら考えなどを形成するといった「思考力、判断力、表現力等」が活用されると同時に、英語に関する「知識及び技能」が活用される。つまり、英語を用いず、日本語だけで情報を整理しながら考えなどを形成する活動は、外国語活動や外国語科においては言語活動とは言い難い。一方で、英語を用いているが、考えや気持ちを伝え合うという要素がない活動も言語活動であるとは言い難い。例えば、発音練習や歌、英語の文字を機械的に書く活動は、言語活動ではなく、練習である。練習は、言語活動を成立させるために重要であるが、練習だけで終わることのないように留意する必要がある。

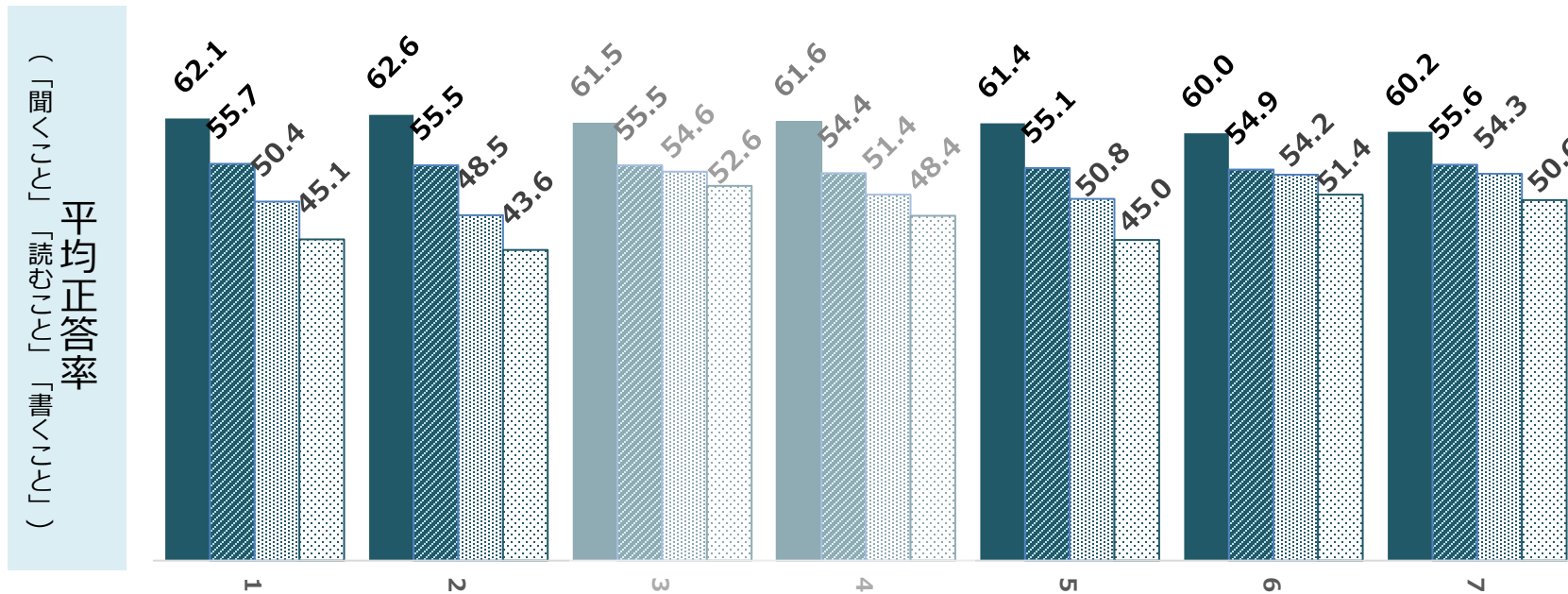
「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」より

言語活動を中心とした授業改善と生徒の英語力の関係

授業で英語を用いた言語活動を行っている学校の生徒ほど、英語の正答率が高い。

各領域（技能）に関する言語活動を積極的に行っている学校の生徒とそうでない学校の生徒とでは、平均正答率に大きな差がある。

出典：平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 質問紙調査より）



授業において、各領域（技能）に関して実際に英語を使った言語活動が行われていたと思うか（生徒質問紙）
（左から順に、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」と回答）

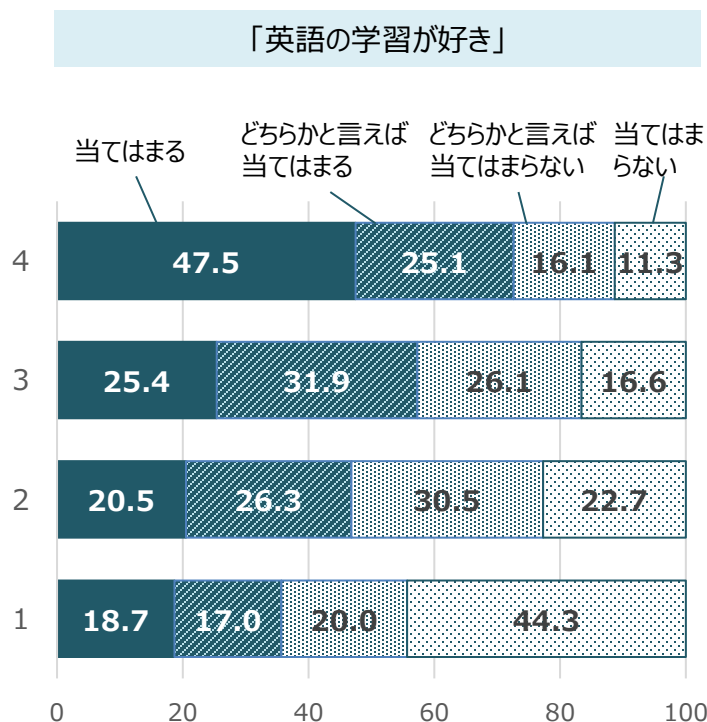
言語活動を中心とした授業改善と学習意欲の関係

英語を使う言語活動を行っている学校の生徒ほど、英語が好きと回答している割合が高い。

即興で自分の考えを英語で伝え合う言語活動（「話すこと〔やり取り〕」）や、聞いたり読んだりした内容について、英語で書いてまとめたり自分の考えを書いたりする言語活動（技能統合）を行っている学校と行っていない学校では、「英語の勉強が好き」という生徒の割合に2倍以上の大きな差が出ている。

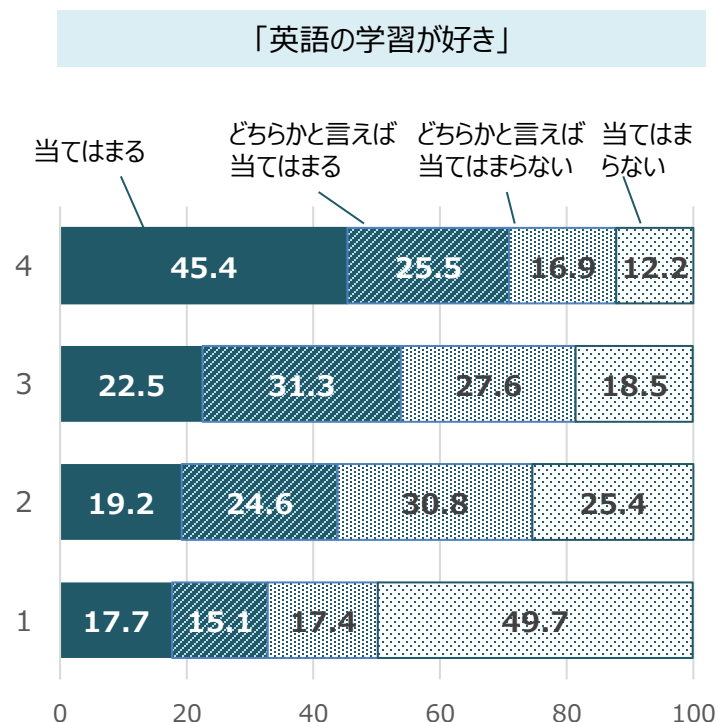
出典：平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 結果概要より）

「話すこと〔やり取り〕」の言語活動の実施※1



※1 「原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動が行われていたと思うか」（生徒質問紙）

「技能統合（書くこと）」の言語活動の実施※2



※2 「聞いたり読んだりした内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動が行われていたと思うか」（生徒質問紙）

全国学力・学習状況調査の基づく効果的な英語指導の在り方について

全国的な状況

- 資質・能力では、知識・技能はかなり定着しているが、**思考力等は3割程度**にとどまっている。
- 言語能力では、表現の能力、理解の能力ともに5割を下回っており、知識・技能を活用する能力が十分身に付いていない。とりわけ、**「話すこと」は正答率が3割**とかなり低い。

①英語学力と質問紙調査の分析

- 下位群の生徒は、知識・技能の定着が、中位群の生徒は、即興でやり取りしたりする技能統合の能力が十分でない。
- 学力の高い上位群の生徒は、言語活動や課題解決学習を行い、英語の授業では思考力を伴う活動を行ってきている。

③学校を軸とした英語学力と質問紙調査の分析

- 就学援助率に関係なく、「1、2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（聞いて）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」に対して肯定的に回答している生徒の方が、生徒個人の英語学力が高くなる傾向がある。



英語力を高める指導例

- ◆ **考えを持たせて発表する。**
- ◆ **比較という思考スキルを用いてスピーチを分析する。**
- ◆ **説明することで自分の知識を高める。**
- ◆ **少人数クラスよりも1クラスを2人の教師で指導する。**

②英語力の高い生徒の傾向

- ◆ 英語や英語学習に対する**肯定的な反応**（好き、大切だ、将来役立つ等）が高い。
- ◆ 1、2年生のときに受けた英語の授業で、**思考力等が必要な活動**（概要や要点を捉える、まとまった内容を発表する、考えや気持ちを書くなど）が行われた。
- ◆ 1、2年生のときに受けた英語の授業で、**課題解決や言語活動**を含んだ活動が行われた。

④英語力向上の成果を上げる学校の傾向

- ◆ 校長のリーダーシップの下で、学校の教育活動全般にわたって**思考力や表現力を伸ばす活動**が多彩に盛り込まれている。
- ◆ 英語の授業で**思考力を伴う言語活動**が多く、それが評価にも取り入れられている（**パフォーマンス評価**）。
- ◆ 単元内にとどまらず、他の場面で活用できる英語学力を付けている。

言語活動について

中学校学習指導要領解説 外国語編(平成29年7月)

3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成の配慮事項

ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す**言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行う**こと。また、小学校第3学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

<配慮事項より抜粋>

- ・言語活動は、「**実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなど**」の活動を基本
- ・2(1)に示す言語材料について「**理解したり練習したりするための指導**」を必要に応じて行うことができるように指導計画を作成することが大切
- ・言語材料について理解したり練習したりすることが目的となって、単に繰り返し活動を行うのではなく、生徒が言語活動の目的や言語の使用場面を意識して行うことができるように留意

・言語活動においては、具体的な課題を設定し、**意味のある文脈でのでのコミュニケーションを通して繰り返し活用し定着を図ることができるように指導すること**

・「思考力、判断力、表現力等」については、2の(1)で示す「英語の特徴や決まりに関する事項(「知識及び技能」のこと)を活用して、**言語活動を通して指導すること、知識及び技能を活用して、思考力、判断力、表現力等が働く場とも言い換えられる。**

・「思考力、判断力・表現力等」を働かせるためには、**コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の設定**をすること

・「情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項」

①英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉えること

②英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること

③「伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うこと

・生徒に言語活動に取り組もうとする態度(学びに向かう力、人間性等)」が働いていること

授業における教師の英語使用の充実に向けて

外国語編

文部科学省

中学校学習指導要領解説 外国語編(平成29年7月)

3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成の配慮事項

エ 生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、**授業は英語で行うことを基本**とする。その際、生徒の理解に応じた英語を用いるようにすること。

<配慮事項より抜粋>

- ・「英語に触れる機会」
 - ・授業は英語を使った「実際のコミュニケーションの場面」
 - ・教師の積極的な英語使用～教師自身がコミュニケーションの手段としての英語を使う姿勢と態度を行動で示すこと
 - ・「生徒の理解に応じた英語を用いるようにする」
- 教師の使用する英語は生徒にとって効果的なインプット**

- ・**従来の授業の在り方を見直し**、授業改善を進めていく必要がある。
- ・授業を英語で行うには、英語を使って生徒とのやり取りをするなどのコミュニケーションを図ることが求められている。
- ・生徒が「実際のコミュニケーションの場面」で「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなど」の言語活動を行うことは、**教師と生徒の間でも英語によるコミュニケーションが当然行われる**。
- ・平成21年改訂の高等学校学習指導要領で「授業は英語で行うことを基本とする」の規定が導入
- ・生徒が自分の英語に対して自信をもって堂々と使っていけるようにするためには、授業で触れる**教師の英語使用に対する態度と行動**が大きな影響力をもつ。

小・中学校の接続を重視し、学びの連続性を意識した指導の充実に向けて

中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月）

3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成の配慮事項

(1) 指導計画の作成に当たっては、小学校や高等学校における指導との接続に留意しながら、次の事項に配慮するものとする。

ウ（中略）小学校第3学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を**繰り返し指導し定着を図る**こと。

<配慮事項>（抜粋）

（中略）特に、小学校における外国語活動や外国語科の内容、指導等の実態や生徒の興味・関心等を十分に踏まえるとともに、生徒が在籍していた小学校において、どのような時間割編成、指導体制によって授業が行われているかを把握することにより、**中学校への円滑な接続**を図ることが必要である。

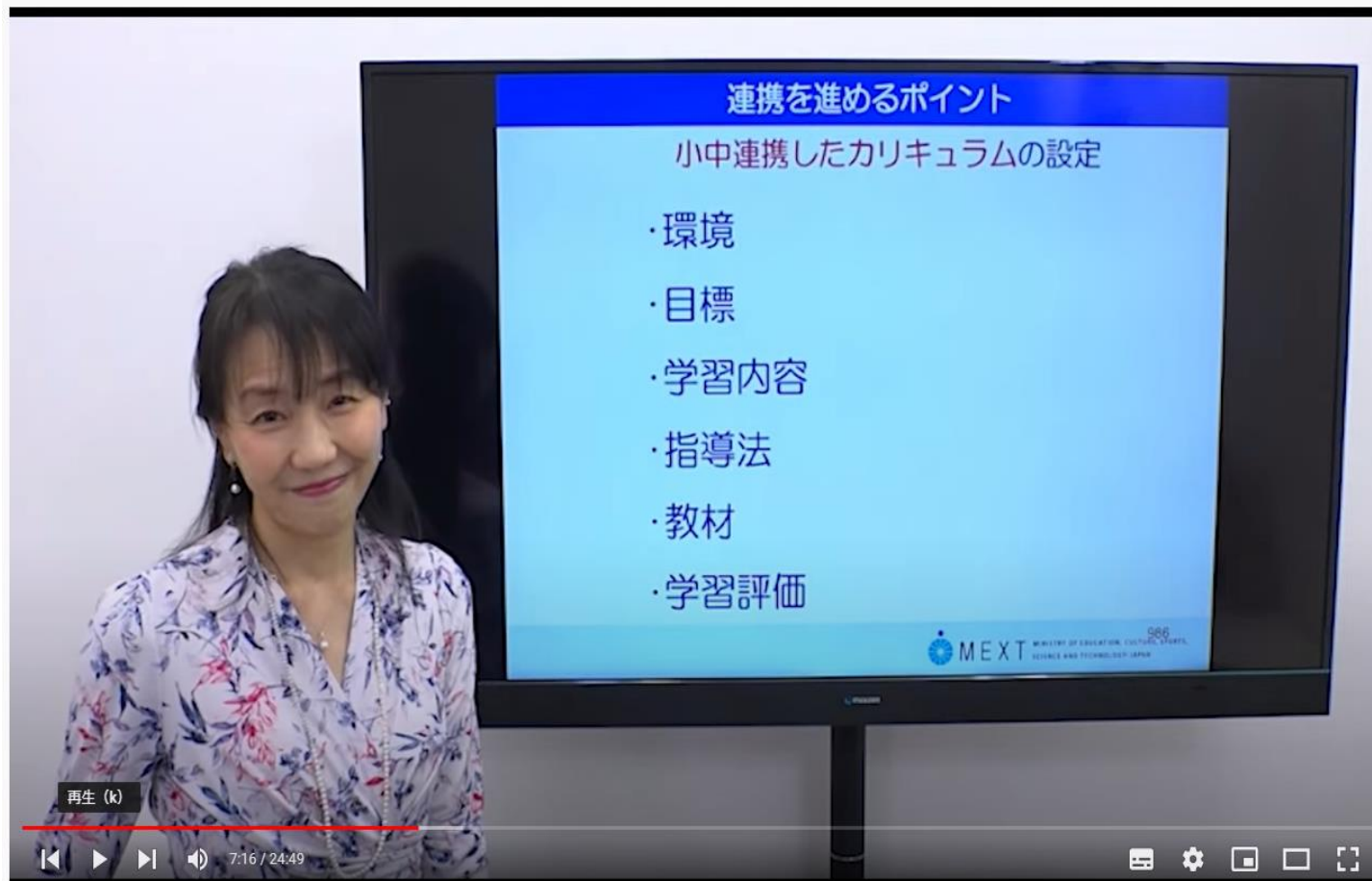
- ・小中連携をより一層推進するためには、受け入れる側の中学校からのアプローチが大切であることから、中学校区内の小学校教員とともに「**育てたい児童生徒の姿**」や学習到達目標を協議する場の設定
- ・人的環境（小・中免許保持者やALT等）、指導体制の整備、相互参観での学習内容や指導方法、教科書等の共有を図る機会を通した相互理解の促進
- ・小中外国語の共通点と相違点を理解した上で、小中連携カリキュラム作成を推進する研修会のあり方
- ・小中連携カリキュラムの作成に向け、自治体担当者が小中連携のファシリテーター役を担当
- ・（例）小学校6年生が中学校英語科教師に向けて自己紹介動画を作成する単元を設け、それを実際に中学校英語科教師が見る事で、中学入学前に小学校6年生の実態の理解に繋がったという事例



②小・中学校外国語科の共通点と相違点の理解

外国語教育はこう変わる！ (文部科学省 mextchannel)

https://www.youtube.com/watch?v=_VNF5iJiLuo&t=997s



小中連携を進めるために

情報交換

- ・授業参観
- ・年間指導計画の交換
- ・目指す児童生徒像の共有

交流

- ・指導方法等についての検討会
- ・授業参観後の研究協議会等

連携した カリキュラム

- ・環境
- ・学習内容
- ・教材
- ・学習到達目標
- ・指導方法
- ・学習評価

- ・環境（授業時数、活動・教科、指導者）、目標、学習内容 →すでに決まっているもの
- ・指導方法 →小中で継続性をもたせること
音声中心の活動を引き継ぐ（話すこと、聞くこと）
目的意識、相手意識を大切にする
- ・教材、学習評価

【小・中外国語の共通点】

【小・中外国語の相違点】

小中外国語の共通点と相違点を理解した上で小中連携を推進していくことが大切

【中学校】小中学校の指導を円滑にするために、大切にしたい5つポイント



1. 「言語材料」をつなぐ

小学校で学習する「語句」や「表現」を知る。

2. 「言語活動」をつなぐ

小学校での具体的な言語活動やパフォーマンステストを聞き取る。

3. 「教材」をつなぐ

小学校の教科書、授業を見たり、児童の情報を交換をしたりなどをして、どのような教材を用いているのかを知る。

4. 「学び方」をつなぐ

小学校で大切に育んできたコミュニケーションを図る態度、学び方を共有し、引き継ぐ。

5. 「人」をつなぐ

児童と生徒の交流カリキュラムや、「育てたい児童生徒像」の共通理解をするための教員が交流する機会を設ける。

小中連携カリキュラム + 一人一台端末の効果的な活用

小学校・第6学年・外国語科・My Future, My Dream 夢宣言スピーチをしよう①

育成を目指す資質・能力

札幌市提供

- (1) 中学校生活や将来について考え、夢を発表する語句や表現を理解するとともに、それらを用いて、自分の考えや気持ちなどを話することができる。
- (2) 夢を発表する目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付加したりして、発表することができる。
- (3) 中学校生活や将来について考え、他者に配慮しながら、自分の夢について発表しようとする。

ICT活用のポイント

- 各児童が、ICT端末を活用して動画撮影した英語のスピーチを共有し、互いの発表を視聴して学び合う。
- 中学校区内の小・中学校間で、互いが作成したスピーチ動画を視聴し合い、オンラインで評価や感想等を伝え合う。

事例の概要

中学生が作成した「中学校紹介」の
スピーチ動画を視聴

中学校生活や将来について考え、ICT端末を活用して
「夢宣言スピーチ」の動画を作成

中学生に「夢宣言スピーチ」を視聴してもらい、
ウェブ会議ソフトを活用して感想や質問を交流

- ①中学生が作成した英語での
「中学校紹介」のスピーチ動画を視聴し、
感想や質問等をメールで返信する。



- ②中学校生活で楽しみにしている学校行事や部活動、将来
就きたい職業等について、ICT端末を活用しながら「夢宣言
スピーチ」の動画を撮影する。出来上がった動画を中学校に
送り、中学生が視聴する。
- ③ウェブ会議ソフトを活用し、中学校と交流を行い、スピーチの
振り返りを行ったり中学校生活について知りたいことをインタ
ビューしたりする。

外国語教育における小中連携の必要性について
～中学校における小学校での学びの連続性を踏まえた指導の充実に向けて～

中学校では、小学校での学びを踏まえ、五つの領域の言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成することとしていることから、指導計画の作成と内容の取扱いについても小・中学校の接続を重視するとともに、**学びの連続性を意識した指導**をするため、指導計画の作成に当たっては、語彙、表現などを**異なる場面の中で繰り返し活用**することによって、生徒が自分の考えなどを表現する力を高めることが求められている。

また、学びの連続性の観点から、小学校で学んだ語彙や表現なども、**意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れることができるよう工夫**することで、生徒の言語の運用能力を高めることが大切である。

特に、中学1年生では、小学校における外国語活動や外国語科の内容、指導等の実態や生徒の興味・関心等を十分に踏まえるとともに、生徒が在籍していた小学校において、どのような時間割編成、指導体制によって授業が行われているかを把握することにより、中学校への円滑な接続を図ることが必要である。

目標と指導と評価の一体化（Goalと振り返りについて）

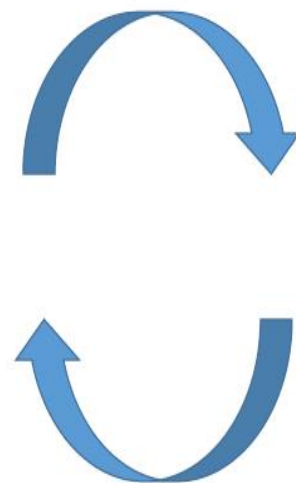
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの**言語活動を通して**、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成すること

目標 学習指導要領



評価

全国学力・学習
状況調査



目標 CAN-DOリスト
単元目標 等



第1部 統計分析
第1章 調査問題を軸にした分析
第2章 生徒を軸にした分析
第3章 学校を軸にした分析
第2部 事例分析
第4章 高い成果をあげている学校
第5章 高い成果をあげている教育委員会

報告書



授業アイデア例



生徒の英語力が高い地域では

【英語能力に最も大きく影響しているのは生徒質問紙60～66の内容】

1、2年生のときに受けた授業について

《60》英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）**概要や要点をとらえる活動**が行われていたと思いますか（61／読んで）

《62》原稿などの準備をすることなく、**（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動**が行われていたと思いますか

《63》スピーチやプレゼンテーションなど、**まとまった内容を英語で発表する活動**が行われていたと思いますか

《64》**自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動**が行われていたと思いますか

《65》聞いたり読んだりしたことについて、**生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動**が行われていたと思いますか

《66》聞いたり読んだりしたことについて、その内容を**英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動**が行われていたと思いますか

10 あなたの学校では、学校の英語版ウェブサイトを開いています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を25語以上の英語で書きなさい。

（正答例）

• Our school has a school festival in October. In the festival, we have a chorus contest and we practice hard to win the gold prize. Many people come to listen to our songs. [33 words]

令和5年度全国学力・学習状況調査問題一覧表 P.10

問題番号			問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式		
					聞 く こ と	読 む こ と	話 す こ と 「やり取り」	話 す こ と 「発表」	書 く こ と	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体的に学習に取り組む態度	選 択 式	短 答 式 / 口 述 式	記 述 式 / 口 述 式
9	(1)	①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	未来表現（be going to）の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○				○	
		②		疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○				○	
	(2)		メールの英文を依頼する表現に書き換える	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる					ア	○				○	
10			学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○				

解説資料

中学校 英語

解答類型

問題番号	解答類型	正答
10	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 学校生活（行事や部活動など）の中から1つ取り上げている。 ② 紹介する内容を一貫性のある文章で書いている。 ③ 25語以上の英語で書いている。 (正答例) ・ Our school has a school festival in October. In the festival, we have a chorus contest and we practice hard to win the gold prize. Many people come to listen to our songs. [33 words]	
1	条件①、②、③を満たし、正確な英語（語や文法事項等の誤りがない）で解答しているもの	◎
2	条件①、②、③を満たし、おおむね正確な英語（コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがない）で解答しているもの (正答例) ・ Our school has a school festival in October. In the festival, we have _ chorus contest and we practice hard. We want to win the gold <u>plize</u>. [26 words]	○
3	条件①、②、③を満たして解答しているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるもの	
4	条件①、②を満たし、おおむね正確な英語（コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがない）で解答しているが、条件③を満たさないもの（20語～24語の英語で書いているもの）	

＜出題の趣旨＞

日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

「まとまりのある文章を書く」とは、文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書くことである。そのためには、「導入—本論—結論」や「主張—根拠や具体—主題の言い換えや要約」など、文章構成の特徴を意識しながら、全体として一貫性のある文章を書くことが重要である。また、出来事や事実を描写したり、考えや感想を述べたりする場合において、よりよく読み手に伝わるよう意識しながら、自分の言いたいことに最もふさわしい表現形式を工夫して書き表すことも必要である。

本問では、日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかを把握するために、学校の英語版ウェブサイトに掲載する学校紹介文を書く問題とした。

なお、本問は、平成31年度【中学校】英語10（正答率1.9%）において、「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く」ことに課題が見られたことを踏まえて出題した。



書くことの言語活動を“横”で見る

小学校第3学年及び第4学年 外国語活動	小学校第5学年及び第6学年 外国語	中学校 外国語	高等学校 英語コミュニケーション
書くこと			
	(ア) 文字の読み方が発音されるのを聞いて、 活字体の大文字、小文字を書く活動。	(ア) 趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を 語句や文で書く活動。	(ア) 身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。
	(イ) 相手に伝えるなどの目的を持って、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ 簡単な語句を書き写す活動。	(イ) 簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを 伝える活動。	
	(ウ) 相手に伝えるなどの目的を持って、語と語の区切りに注意して、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ 基本的な表現を書き写す活動。	(ウ) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを 説明するまとまりのある文章を書く活動。	(イ) 社会的な話題について、使用する語句や文、文章例が十分に示されたり、準備のための多くの時間が確保されたりする状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。
	(エ) 相手に伝えるなどの目的を持って、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から 言葉を選んで書く活動。	(エ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、 自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動。	

書くことの指導で留意したいこと

中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月）

2 内容

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。

カ 書くこと

(ア) 趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動。

(中略)

「書くこと」が苦手な生徒には、何をどのように書けばよいかを指導する必要がある。例えば、日頃から、自分の考えや気持ちをペアやグループで簡単な語句や文を用いて口頭で伝える活動をした後に、その内容を書いてまとめる、といった言語活動を設定することが考えられる。また、日常生活においては、話す内容をメモとして書いたり、簡単な英語で書き表したりした後に、その内容を相手に口頭で伝えることもしばしば起こるため、「話すこと」と「書くこと」の順序についてバランスをとりながら指導に当たることに留意する。(以下、省略)

- ・書く活動を行う前、モデルとなる文をICTで全体へ提示し、その表現を良かった点を意図的にフィードバックすることで、参考にしながら、その後に自分の力で書くことができるようにするといった段階を大切に授業
- ・「書くこと」におけるつまずきには、綴りや語順、文法、語彙だけでなく言語面だけでなく、内容面でも見られる。小学校で慣れ親しんだ語句や表現を用いて、英語の書き方の規則や語順を意識させるために、大型モニター等に語句や表現を可視化することで適切に指導することが必要である。
- ・個に応じた指導を充実させるため、生徒の実態に応じて、言語活動に取り組んでいる際には、教師は積極的に生徒の見取りを行い、個の習熟度に応じて、ヒントを示したり、辞書の使用を促したり、誤りの修正を行ったりすることが大切である。
- ・学習集団全体に共通する語法や文構造等に関する誤りを指導する際には、機会を捉えて説明し直し、自分が書いたものを修正させるなどの手立てを通して、徐々に正確に書けるように指導する。



「話すこと」「書くこと」におけるパフォーマンステストの質の向上に向けて

目標（付けたい力）
は明確か？
学校の実態に応じた
目標設定か？
（CAN-DOリスト）

生徒が目標を理解
し、学びの見通しを
もてるか？

採点の基準は目
標（付けたい力）
に沿っているか？

目標（付けたい力）を達成できた
かどうかを測るテストである

目標準拠の指導とテスト

生徒が授業での
活動の再現を行う
ことができるか？

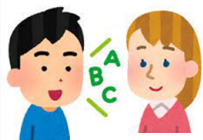
生徒のコミュニケー
ションを図る力の育
成につながるような
パフォーマンステス
トになっているか？

テストの後の生徒
の学びにつなげら
れているか？

高等学校外国語科における パフォーマンステスト参考資料 (指導者用資料)

「高等学校外国語科におけるパフォーマンステスト参考資料 学習指導要領においての「指導と評価の一体化」の充実を図る考となるように作成したものです。

英語教育実施状況調査で見られた、「話すこと」や「書くこと」の発信力を測るパフォーマンステストの実施状況についての課題



目次

はじめに	資料のよりよい活用のために 事例の見方（各事例については1～8をクリック！） パフォーマンステスト実施のTIPS
やり取り	1 ロールプレイ フェアトレードの啓発活動 2 質疑応答 思い出を伝え合おう 3 ディスカッション 参加するボランティア活動
発表	4 スピーチ 尊敬する人について話して 5 ポスターセッション 生物模倣学による商品開発 6 プレゼンテーション 文化祭での出し物について
書くこと	7 電子メール 外国の高校生からのメールに返信をしよう 8 論証文 グローバル化の健康への影響について書こう



資料のよりよい活用のために

二つの資料を目的に応じて活用しよう！

本資料をよりよく活用するためには、学習評価の在り方や評価の総括などについて理解しておくことが大切です。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
(国立教育政策研究所教育課程研究センター)

- ✓ 学習評価の在り方
- ✓ 観点別学習状況の評価の進め方・評価の総括
- ✓ 単元ごとの指導と学習評価 など

高等学校外国語科におけるパフォーマンステスト参考資料（本資料）

- ✓ 指導とパフォーマンス評価
- ✓ 話すこと・書くことにおけるパフォーマンス評価の実施方法 など

事例の見方

事例1：話すこと・やり取り・ロールプレイ

1 単元の目標
社会的な話題（フェアトレード）について、情報や考え、気持ちなどを理由とともに話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

2 評価標準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・情報や考え、気持ちなどを伝えるための必要となる語彙や表現、音声等を理解している。	他の高校生は、フェアトレードについて理解してもらえようという、フェアトレードの啓発活動の企画について、情報や考え、気持ちなどを理由とともに話して伝え合っている。	主体的に学習に取り組む態度

3 テストについて
(1) 場所 別室
(2) 内容 フェアトレードの啓発活動についてアイデアを伝え合おう
・写真等が書かれたカード、タブレット端末等の録画機器（録画用1台）、タイマー、時計等

領域でのパフォーマンス評価の種類を示しています。

単元での目標を示しています。

該当単元で育成したい資質・能力を三つの柱に沿って示しています。

実際のテストの実施について、場所・内容・準備物・方法を示しています。

テストの実施については、事例を参考に、各学校の実態に応じて様々な工夫を行い実施しましょう。

と身に付けさせたい力が達成できているかを測るものです。そのために、設定した生徒と目標を共有

《パフォーマンステストで使用するボランティア募集のチラシ（例）》

Looking for Volunteers!
Work for our community and gain valuable experience

Reading to Children

Date: August 6 (Thu.)
16:00-17:00
Work: Read books aloud to elementary school students
Requirement: Be willing to work with children.

Workshop Assistant

Date: August 13 (Fri.)
Work: Work as an assistant at a Japanese culture workshop for Canadian high school students visiting our city
Requirements: Be interested in inter-national exchange

Animal Shelter Staff

パフォーマンステスト実施のTIPS

目標に準拠した指導とパフォーマンステストを実施しましょう。

授業で扱った話題に関連した課題にするなどして、語彙や表現、文法事項などの言語材料が活用できるようなテストを行いましょう。

生徒のコミュニケーションを図る力の育成につながるようなパフォーマンステストを行いましょう。

学校の外国語（英語）の同じ科目を担当する教師で、テストの内容や評価時期などを考え計画しましょう。

テストを受けるまで待つ生徒の扱い、テストでの生徒のICTの活用、テストの記録方法や採点方法など、学校の実態に応じて工夫しましょう。

テストを実施したら、課題を次のテストに生かし、テストの改善を図りましょう。

令和5年度 千葉県 英語教育改善プラン

目標 英語を使って、自分の気持ちや考えを即興で伝え合うことができる生徒の育成。

1. 現状

改善が進んだ点

①・・・授業における生徒が英語で言語活動をしている時間の占める割合が上昇。

R3 R4

中1 67.7% → 69.2%

中2 63.2% → 63.8%

中3 59.5% → 64.8%

②・・・中学3年生でCEFR A1相当以上の英語力を有している生徒の割合が上昇。

R3 R4

中3 52.0% → 59.1%

※①②ともに英語教育実施状況調査結果より

未だ改善が必要な点

①・・・授業における生徒が英語で言語活動をしている割合が上昇しているが、千葉県はこの項目の目標値を100%とし、英語の授業は英語で行うことを求めているが、達成できていない。

②・・・中学3年生でCEFR A1相当以上の英語力を有している生徒の割合について、千葉県は60%を目標にしており達成できていない。

2. 分析

①・・・研修において、英語の授業は英語で行うことを説明しており、教員の意識が高まっている。

中学校における、発信力を高める授業の好事例を周知することで話すことや書くことも言語活動の量が増加したことが要因の一つである。

②・・・①の要因に加え、教員の英語による発話量の増加により、4技能をバランスよく指導することができることにより、生徒の英語力が向上したと考えられる。

①・・・目標値を達成できていないが、ICTを活用できていないことや「読むこと」「聞くこと」等の一部の技能の指導に重点的に取り組んでいることが見受けられるため、目標値達成に至っていないと考えられる。

②・・・目標値達成はできていないが、達成目前まで迫っており、今後も4技能をバランスよく指導することで生徒の英語力向上を図る。

3. 施策・事業

①外国語教育小・中・高連携モデル事業

→発信力を高めるための授業について研究し、好事例として発信していく。これまでの動画を教科部会等でも活用できるように周知していく。

①パフォーマンステストに係る県独自問題作成

→パフォーマンステストを活用し、発信力を高めるとともに、生徒が英語で言語活動を行う時間を増加させる。

①②小中連携推進会議

→小学校と連携を図ることで、既習内容を踏まえた言語活動を実践し、より効果的な言語活動にしていく。

②4技能向上English Workshop

→教員の英語力向上を図ることで、教員の英語による発話量の増加を通して、生徒の英語による言語活動の充実につなげることで生徒の英語力向上を目指す。

①外国語教育におけるICTの効果的な活用研修

→ICTやデジタル教科書を活用することで生徒の英語による言語活動が実践できるように研修を行うことにより、授業改善を促進させる。また、情報交換の場を設け、多くの事例を交流することで活用促進を図る。

②生徒の発信力を高めるオンライン英語研修

→「読むこと」「聞くこと」に偏ることなく4技能をバランスよく指導することで生徒の英語力向上を図る。理論研修だけでなく、授業実践を通し、指導力向上を目指す。

英語教育改善プラン事業における情報提供

学習者用デジタル教科書の効果的な活用による言語活動の充実 (山梨県教育委員会)



URL: <https://youtu.be/4InrByel76>

英語教育改善プラン推進事業について

児童生徒1人ひとりの英語の学習到達度に応じ、1人1台端末を使用して個別最適な学びを実現する学習ツール「STEPS in OSAKA」(大阪府教育委員会)



STEPS in OSAKA とは

児童生徒1人ひとりの外国語（英語）の学習到達度に応じ、1人1台端末を使用して個別最適な学びを実現するための学習ツールです。

大阪府が作成した、4技能5領域とCEFR-J（PreA1～B2.2の10段階）に準拠した**大阪版CAN-DOリスト**の各段階に応じたテスト問題（STEPS問題）を、文庫科学者のWEXCBT上に搭載しました。各学校では、学習e-ポータルを使用してSTEPS問題を選択したり、解答状況を確認したりすることが出来ます。

STEPS in OSAKA (STEPS in OSAKAとは)

児童生徒1人ひとりの外国語（英語）の学習到達度に応じ、1人1台端末を使用して個別最適な学びを実現するための学習ツールです。

大阪府が作成した、4技能5領域とCEFR-J（PreA1～B2.2の10段階）に準拠した**大阪版CAN-DOリスト**の各段階に応じたテスト問題（STEPS問題）を、文庫科学者のWEXCBT上に搭載しました。各学校では、学習e-ポータルを使用してSTEPS問題を選択したり、解答状況を確認したりすることが出来ます。

STEPS in OSAKA		小・中・高を通した4技能5領域の総合的な向上をめざす		大阪版 CAN-DO リスト		YES, I CAN!		リット		④チカチカ		⑤タフタフ		⑥タフタフ		⑦タフタフ		⑧タフタフ		⑨タフタフ		⑩タフタフ		CEFR-J	
聞くこと Listening		読むこと Reading		話すこと (やり取り) Speaking (Interaction)		話すこと (発表) Speaking (Presentation)		書くこと Writing																B2	
STEP 10	● 多量な音声材料を聞き取り、内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	B2.1	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。
STEP 9	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	B2.1	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。
STEP 8	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	B2.1	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。
STEP 7	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	B2.1	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。
STEP 6	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	A2.2	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。
STEP 5	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	A2.1	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。
STEP 4	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	A1.3	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。
STEP 3	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	A1.2	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。
STEP 2	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	A1.1	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。
STEP 1	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。	PreA1	● 目的に沿ったトピックについて、詳細な内容を正確に理解することができる。

<情報提供> (千葉県教育委員会)

対応CEFR A1

タイトル		
The Video Letter ～お世話になるホストファミリーにビデオメッセージを送ろう～		
【分類①】	【分類②】	【実施形態】
発表	思考・判断・表現	スピーチ

- 1 実施方法
1人ずつビデオ録画する。
- 2 評価規準
思考・判断・表現：これからお世話になるホストファミリーに、自分のことをよく知ってもらうために、ホームステイ中にやりたい事を理由とともに分かりやすく伝えている。
- 3 問題
 - (1) テスト前の学習状況
 - ①学習状況
 - ・自己紹介の発表活動を経験している。
 - ・現在完了形を学習し、自分の経験や継続していることについて述べる表現を知っていることが望ましい。
 - ②準備
 - ・事前に、原稿作成と発表練習として2時間設定する。
 - ・指示文：

「あなたは、外国に2週間のホームステイに行くことになりました。どの国に行くかは自由に選ぶことができます。出発するにあたって、お世話になるホストファミリーに、事前にビデオメッセージを送ります。あなたがどういふ人が簡単に自己紹介をし、また滞在中にやってみたい事を2つ、理由も添えて言いましょう。」
 - ・発表原稿を予め一律に提出させたり、教師が手直ししたりすることは、必ずしも必要ではない。
 - (2) テストの内容
 - ・別室に入り、ビデオ録画をする。
 - ・原稿は見ないで発表する。ただし、発表内容（話す順番やキーワードなど）のメモは用意してもよいこととする。
 - ・録画時間は最大で1分程度とする。
 - ・途中、10秒以上沈黙、又は無音の状態が続いたらその時点で終了とし、そこまでの発表内容を評価する。

発表原稿例

Hello! Thank you for being my host family.

My name is Mika. I live in Chiba. Chiba is next to Tokyo.

There are four people in my family: my father, my mother, my sister, and me.
We have a dog. His name is Kenta.

At school, I'm on the basketball team. I like playing sports.

When I go to America, I want to try two things.

First, I want to go to the supermarket near your house.

I've been to BS(※) once, and I was surprised at the size of the store.

Do you have BS in your town?

Second, I want to try cooking with you.

I want to learn how to cook an American dish, and teach it to my mother when I go back home.

I'm really looking forward to seeing you all.

Bye!

(※) BS : famous supermarket name

(137語)

外国語教育における授業改善

パフォーマンステスト実践事例集

千葉県教育委員会

<情報提供>
(東京都教育委員会)



「生徒の英語によるパフォーマンスを
高めるための指導資料」

(東京都教育委員会 令和2年1月)

「話すこと〔発表〕」の言語活動例のうち、
即興で話すことに関連したパフォーマンス
テストのテーマ設定例を紹介 (P32～34)

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/global/junior_high.html



外国語教育はこう変わる！

10本
追加！

新着動画のご案内

小・中・高等学校の授業動画及び解説動画を通して、授業を工夫するヒントや日頃の疑問の解消につなげていただけますと幸いです！



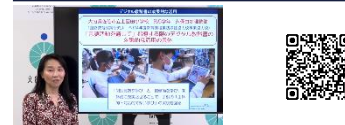
外国語教育はこう変わる！
文部科学省/mextchannel
全87本公開中！

小学校 解説2本

「言語活動を通して」の具体



「言語活動を通して」指導する際の デジタル教科書の効果的な活用の具体



中学校 授業3本

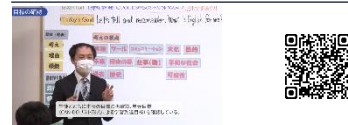
指導力向上実践例①話すこと[やり取り]



指導力向上実践例②話すこと[やり取り]



指導力向上実践例③話すこと[発表]



高等学校 授業2本

日頃からALTとのコミュニケーションを
大事にしてつくるチーム・ティーチン
グ



読んで話して、書くことへ



高等学校学習指導要領解説[書くこと]



※[聞くこと]、[読むこと]も追加。
チャンネル上からご覧ください。

解説3本



中学校：学習到達目標 編

【授業】

中学校の外国語教育はこう変わる！
～前編(授業)～



【授業】

中学校の外国語教育はこう変わる！
～後編(授業)～



【授業】

中学校の外国語教育はこう変わる！③
～社会的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～



【解説】

中学校学習指導要領・学習評価の解説
前編



【解説】

中学校学習指導要領・学習評価の解説
後編



小中連携 編

【解説】

外国語教育における小中連携
必要性和ポイント



【解説】

中学校学習指導要領・学習評価の解説
前編



【解説】

中学校学習指導要領・学習評価の解説
後編



中学校：パフォーマンステスト 編

【解説】

中学校学習指導要領・学習評価の解説
前編



【解説】

中学校学習指導要領・学習評価の解説
後編





中学校：言語活動 編 ①

New
!

【授業】
教師の指導力向上に向けた実践例①
～領域目標 話すこと[やり取り]～



New
!

【授業】
教師の指導力向上に向けた実践例②
～領域目標 話すこと[やり取り]～



New
!

【授業】
教師の指導力向上に向けた実践例③
～領域目標 話すこと[発表]～



【授業】
「読むこと」と「書くこと」の
領域統合の指導例



【授業】
新しい言語材料の導入の仕方例



【解説】
読むことの指導例
～読んだ内容を伝えることを目的として
読ませる指導例～



【授業】
主に「思考力・判断力・表現力等」を
育成するための指導例
～やり取りを重視した授業、ALTを活用した実践～



【授業】
主に「思考力・判断力・表現力等」を
育成するための指導例
～伝え合う内容を重視した授業、
学習集団づくりが大切にされた実践～



【授業】
社会的な話題について
自分の考えをもち表現させる指導例





中学校：言語活動 編 ②

【授業】

中学校の外国語教育はこう変わる！
～前編（授業）～



【対談】

中学校の外国語教育はこう変わる！
～後編（対談）～



【授業】

中学校の外国語教育はこう変わる！②
～言語活動を通して、言語材料を学ぶ～



【授業】

中学校の外国語教育はこう変わる！③
～社会的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～



【授業】

中学校の外国語教育はこう変わる！④
～日常的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～



【授業】

中学校の外国語教育はこう変わる！⑤
「統合的な言語活動の指導の工夫」



【解説】

中学校学習指導要領・学習評価の解説
前編



【解説】

中学校学習指導要領・学習評価の解説
後編





中学校：教師の英語使用状況 編

New
!

【授業】
教師の指導力向上に向けた実践例①
～領域目標 話すこと[やり取り]～



New
!

【授業】
教師の指導力向上に向けた実践例②
～領域目標 話すこと[やり取り]～



New
!

【授業】
教師の指導力向上に向けた実践例③
～領域目標 話すこと[発表]～



【授業】
主に「思考力・判断力・表現力等」を
育成するための指導例
～やり取りを重視した授業、ALTを活用した実践～



【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる！②
～言語活動を通して、言語材料を学ぶ～



【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる！③
～社会的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～



【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる！④
～日常的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～



【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる！⑤
～総合的な言語活動の指導の工夫～





中学校：評価と一体化した指導 編

【解説】
中学校学習指導要領・学習評価の解説
前編



【解説】
中学校学習指導要領・学習評価の解説
後編



【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる！③
～社会的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～



【授業】
主に「思考力・判断力・表現力等」を
育成するための指導例
～やり取りを重視した授業、ALTを活用した実践～



【授業】
主に「思考力・判断力・表現力等」を
育成するための指導例
～伝え合う内容を重視した授業、
学習集団づくりが大切にされた実践～



中学校：生徒とのインタラクション 編

【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる！②
～言語活動を通して、言語材料を学ぶ～



【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる！③
～社会的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～



【授業】
社会的な話題について
自分の考えをもち表現させる指導例



【授業】
主に「思考力・判断力・表現力等」を
育成するための指導例
～やり取りを重視した授業、ALTを活用した実践～



「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿

教育基本法（平成18年法律第25号）第9条において「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず（ ）と（ ）に励み、その職責の遂行に努めなければならないとともに、教育公務員特例法第21条においても「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず（ ）と（ ）に努めなければならない」とされるなど、教師はそもそも学び続ける存在であることが強く期待されている。

（中略）

令和答申においても、実現すべき教師の姿について、「教師が技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探求心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている。その際、子供の主体的な学びを支援する（ ）としての能力も備えている。」と言及されており、学び続けることの重要性が特に強調されている。

「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて（審議まとめ）より

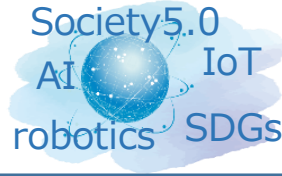
令和3年11月15日 中央教育審議会 「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会



学習指導要領とGIGAスクール構想の関係

2030年の社会と子供たちの未来（平成28年12月中央教育審議会答申から抜粋）

社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難に



社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば難しい時代

変化を前向きに受け止め、社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものに

平成29年、30年、31年学習指導要領

前文 これからの学校には、（略）一人一人の児童（生徒）が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

育成を目指す資質・能力の三つの柱

学びに向かう力、人間性等

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

資質・能力の育成



授業改善

・各教科等で育成を目指す資質・能力の育成
・言語能力、**情報活用能力**、問題発見・解決能力等の**教科等横断的な視点に立った資質・能力**の育成等

学習指導要領 総則
第3 教育課程の実施と学習評価

主体的・対話的で深い学び

一体的に充実

学習指導要領 総則
第4 児童（生徒）発達の支援

個別最適な学び（教師視点では「個に応じた指導」）、**協働的な学び**

主体的・対話的で深い学び、個別最適な学び及び協働的な学びに生かす

GIGA※スクール構想（1人1台端末・高速ネットワーク）（カリキュラム・マネジメントにおける物的な体制整備に位置付けられる。）

教育・学習におけるICT活用の特性・強みを生かし、新学習指導要領の趣旨を実現するため重要な役割を果たす。

※Global and Innovation Gateway for Allの略

デジタル教科書の効果的な活用に向けて

これからの学びのスタンダード
～学習者用デジタル教科書を活用した学びの変化～

これからの学びのスタンダード

～ 学習者用デジタル教科書を活用した学びの変化 ～

<https://www.youtube.com/watch?v=x8YniQAaAWE&t=184s>

学習者用デジタル教科書の事例集・研修動画等について

- 文部科学省では、デジタル教科書の効果的な活用を普及促進するため、デジタル教科書の効果的な活用に関する事例集や研修動画を作成し、文部科学省HPにて公表しています。（下記URL参照）
学校現場の教職員の方や、教育委員会などの管理機関において学校教育を担当する職員の方におかれましては、研修を行う際などに、是非ご活用ください。
- また、学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方や、導入に当たっての留意点等については、「学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン」も作成しています。あわせてご利用ください。

＜文部科学省ＨＰ：学習者用デジタル教科書の制度化＞

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/seido/1407731.htm ※事例集等は「関係資料」の欄に掲載しています。



＜学習者用デジタル教科書＞

令和2年度から実施される新学習指導要領を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の観点からの授業改善や、特別な配慮を必要とする児童生徒等の学習上の困難に対応する（学校教育法等の一部を改正する法律）等関係法令が平成31年4月から施行されました。これにより、これまでの紙の教科書を主たる教材として活用しながら、必要に応じて活用することが可能となりました。

※これまでの「学習者用デジタル教科書」は、紙の教科書の内容の全部（電磁的記録に記録することによって変更が必要となる内容を除く。）をそのまま記録した電磁的記録の形式で提供されています。学習者用デジタル教科書の円滑な導入に向け、その効果的な活用の方針等に関するガイドラインを平成30年10月に公表（令和3年3月改訂し、これを決定）公表（令和3年3月一部補填）していますので、併せて御活用ください。

＜学習者用デジタル教科書＞

紙の教科書

同一の内容をデジタル化

学習者用コンピュータ

概要

- 学習者用デジタル教科書のイメージ（PDF:288KB）
- 学習者用デジタル教科書の制度化に関する法令の概要（PDF:119KB）

関係通知・事務連絡

- 学校教育法等の一部を改正する法律の公布について（通知）（平成30年6月25日）
- 学校教育法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係法令の整備及び経緯関係に関する法令等の公布について（通知）（平成30年12月27日）
- 学校教育法第二十四條第二に規定する教材の使用について定める告示の一部を改正する告示及び施行等について（通知）（令和3年3月16日）

関係会議

- 「デジタル教科書」の取扱いに関する検討会議
- 「デジタル教科書」の効果的な活用の方針等に関するガイドライン検討会議
- デジタル教科書の今後の方針等に関する検討会議

関係文庫

- 学習者用デジタル教科書の効果的な活用の方針等に関するガイドライン（令和3年3月改訂）（PDF:3751KB）
- 学習者用デジタル教科書実用事例集（2022年3月）（word）（PDF:1811KB）
- 学習者用デジタル教科書実用事例集（2022年3月）（印刷用その1）（PDF:6335KB）
- 学習者用デジタル教科書実用事例集（2022年3月）（印刷用その2）（PDF:5859KB）
- 学習者用デジタル教科書実用事例集（2022年3月）（印刷用その3）（PDF:3885KB）
- 学習者用デジタル教科書実用事例集（2022年3月）（印刷用その4）（PDF:6743KB）
- 学習者用デジタル教科書実用事例集（2022年3月）（印刷用その5）（PDF:7109KB）
- 学習者用デジタル教科書実用事例集（2022年3月）（印刷用その6）（PDF:4926KB）
- 令和3年度「学習者用デジタル教科書の効果・影響」に関する実証研究調査レポート作成書

事例集・研修動画のURLはこちら

はじめての学習者用デジタル教科書

～総論編～

学習者用
デジタル教科書
実践事例集

2022年3月

文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY

デジタル教科書の活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

活用編

[illegible]

特設ウェブサイト「StuDX Style」について

特設ウェブサイト「StuDX Style」では、1人1台端末の更なる利活用の促進に向けて、全国の学校や自治体から提供いただいた端末の活用方法に関する優良事例等を数多く紹介しています。

具体的には、活用のはじめの一步となる「慣れるつながる活用」、各教科等の学習に生かす「各教科等での活用」の事例を紹介するとともに、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていく「STEAM教育等の教科等横断的な学習」の取組事例もあわせて掲載しています。



各教科等での活用事例

各教科等の指導における1人1台端末の活用事例について小学校・中学校・高等学校の各教科等のポイントや、各教科等の特質を踏まえた活用事例を紹介しています。



小学校



中学校



高等学校

STEAM教育等の教科等横断的な学習の取組事例

STEAM教育等において、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進している自治体や学校の取組事例を紹介しています。



GIGAに慣れる活用事例

学習環境づくり等の取り組みやすい事例や、パスワード指導やルールづくり等の適切で安全な端末活用の事例などを中心に、1人1台端末の活用に取り組み始める先生方へのヒントとして紹介しています。

「つながる」活用事例

「教師と子供がつながる」「子供同士がつながる」「学校と家庭がつながる」「職員同士でつながる」について、授業等での活用のヒントが欲しい先生に向けての活用事例を紹介しています。

各OS事業者との連携

各OS事業者と連携し、StuDX Styleの事例の使い方などを紹介しています。



特集ページ

自宅等でのオンラインを活用した学習指導に関する事例や、先進的に取り組んでいる自治体の研修情報やコンテンツ情報などを紹介しています。

文部科学省では、GIGAスクール構想の下での学習指導における1人1台端末の活用について、情報を求める全ての人々に広くタイムリーに情報提供を図るための「GIGA StuDXメールマガジン」を配信しています。

学校はもとより教職員1人1人の皆様からのご登録も可能です。既に相当数の教職員の皆様からご登録いただいています。

登録方法

\ 1分で登録! /



2次元コード
から登録



配信内容

配信予定内容

- StuDX Style
の最新情報、
- 活用事例や対
応事例
- 子供の声 等



あなたはどのタイプ？

1. The mediocre teacher **tells**.
2. The good teacher **explains**.
3. The superior teacher **demonstrates**.
4. The great teacher **inspires**.

(by William Arthur Ward, an American philosopher & educator)